

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

国立公文書館	
分類	返 赤
配架番号	3 A
	14
	35-1-1

陸軍中將 三宅俊雄 序
陸軍歩兵學校 校編

九二式歩兵砲取扱上参考

陸軍歩兵學校將校集會所

3991

CINCPAC CINCPAC 3991

国立公文書館	
分類	
配架番号	35-1-1

めくられず

陸軍歩兵學校長
陸軍中將 三宅俊雄 序
陸軍歩兵學校編

九二式歩兵砲取扱上ノ参考

陸軍歩兵學校將校集會所

序

本書ハ兵器ノ取扱ニ關シ教育訓練上必要ト認ムル事項ヲ
勉メテ平易ニ解説スル爲從來當校ニ於テ研究セル結果ヲ
輯録セルモノナリ固ヨリ推敲ノ餘地ナキニアラザルモ各
隊教育ノ現況ニ鑑ミ參考資料トシテ取急ギ上梓シ之ヲ頒
ツコトトセリ

昭和十三年六月

陸軍歩兵學校長 三宅俊雄

九二式步兵砲取扱上ノ参考

目次

總説.....一

第一節 構造及機能.....一

第一款 砲各部ノ名稱及寸法並ニ重量.....二

第二款 砲身及閉鎖機.....四

 共ノ一 全 般.....四

 共ノ二 閉 鎖 機.....四

第三款 搖架及高低照準機.....三

第四款 駐退復座機.....四

 共ノ一 構 造.....四

 共ノ二 機 能.....五

目次

目次

第五款 砲架及方向照準機

第六款 照準具

第七款 脚及車輪

第八款 屬品

第二節 分解及結合

通 耶

第一款 日常ノ手入若クハ演習後ノ拭淨等ニ於テ行フ分解及結合

第二款 精密拭淨、射擊前後、修理等必要ナルトキニ行フ分解及結合

第三節 取扱上ノ注意

第一款 教練上ノ注意

第二款 射擊上ノ注意

其ノ一 射撃前

其ノ二 射撃間

其ノ三 射撃後

第三款 極寒時及風塵時ノ注意

其ノ一 極寒時ノ注意

其ノ二 風塵時ノ注意

第四節 手入

要 旨

第一款 常用品ノ手入

其ノ一 普通手入

其ノ二 精密手入

第二款 格納品ノ手入

其ノ一 格納前ノ手入

其ノ二 格納間ノ手入

第五節 彈薬

目次

三

九

六

七

七

壹

六

六

六

六

六

六

六

九

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

九二式歩兵砲取扱上ノ参考目次終

第一款 構造機能ノ大要	二
其ノ一 九二式榴彈	九
其ノ二 九二式代用彈及空包	九
第二款 取扱上ノ注意	五
第六節 駄馬具	六
第一款 各部ノ名稱並ニ用途	六
第二款 結合及分解	七
第三款 取扱上ノ注意	七

九二式歩兵砲取扱上ノ参考

總説

九二式歩兵砲ハ單一彈丸ヲ以テ平射及曲射ヲ兼テ行フ砲身後座式火砲ニシテ砲身、搖架、砲架、脚、車輪、防箱ノ主要部ヨリ成ル
運動ハ獸載、繫駕或ハ臂力ニ依ル

九二式歩兵砲取扱上ノ参考

第一節 構造及機能

第一款 砲各部ノ名稱及寸度並ニ重量

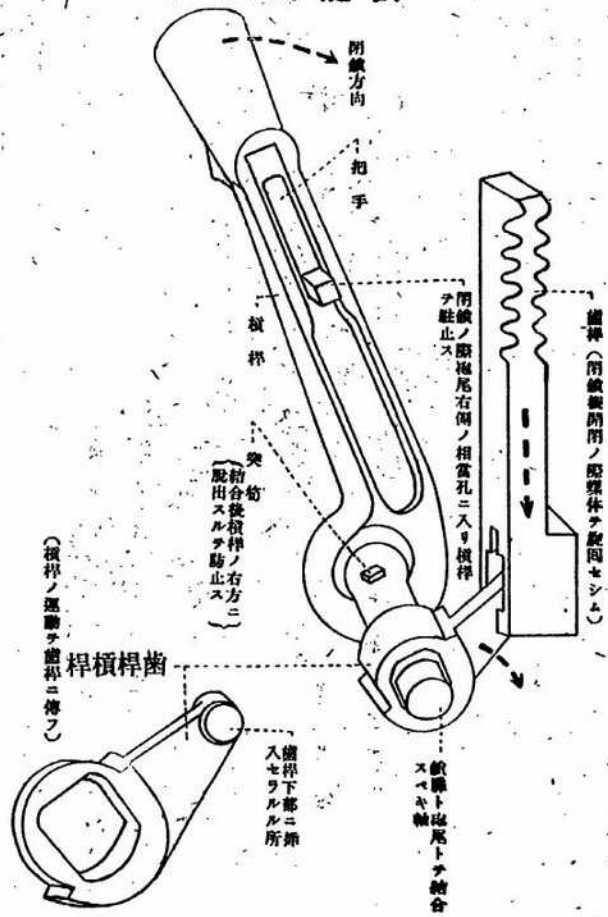
砲身	重量	約四六五
口徑	〇米〇七	
橋架	重量(鋼製共)	約四六五
砲架	重量	約一九五
	(柱選定座機 高低照準機共)	
砲架	重量	約三五五
	(方座照準機 脚架 真軸共)	
車輪	重量(車輪共一箇)	約二五五
脚架	重量(一箇)	約一五五
防振	重量	約一三五
	(補助防振共)	
車輪	重量	七〇〇
外徑	約三八五	
輪距	約三五〇	
放列砲車	重量	約一〇〇



めくれず

機能要領圖

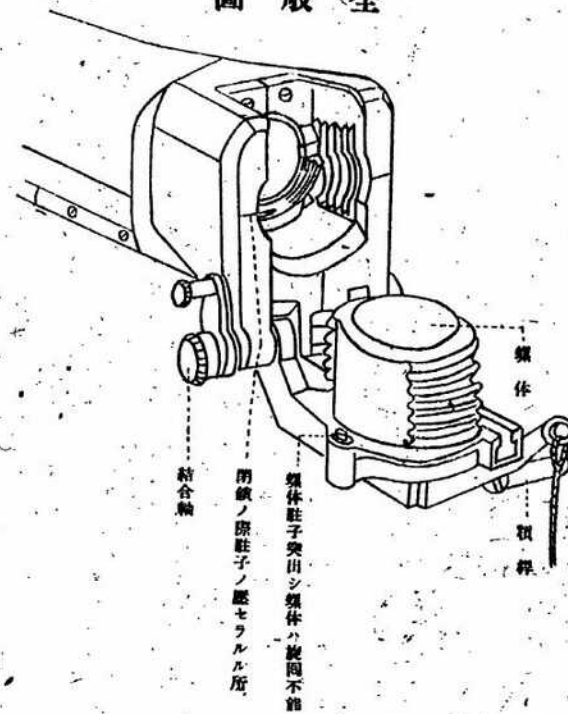
構造及機構



九

全般圖

九二式歩兵砲車後上ノ參考
一、閉鎖装置
二、閉鎖装置及抽筒装置



八

2、開閉機能

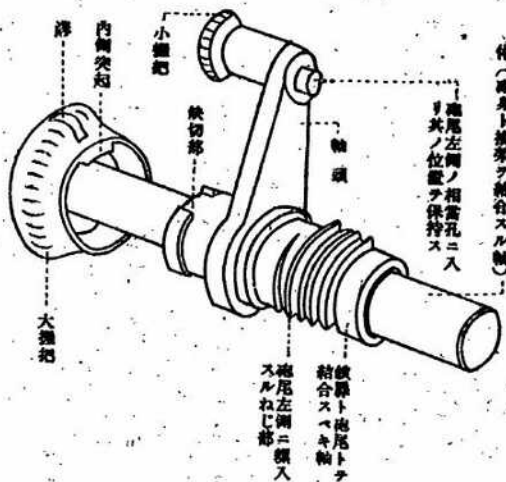
イ、開機

安全栓ヲ發火ノ位置ト爲シ槓桿ノ握リ部及把子ヲ握レバ把子ハ壓縮セラレ把子ノ爪鉄部ハ砲尾右側ノ室ヨリ出ツ次デ槓桿ヲ後方ニ旋回セバ齒桿槓桿ヲ經テ齒桿ハ下方ニ引カル然ルトキハ螺体ハ四分ノ一旋回シ閉鎖機室ノ齒弧ト螺体ノ齒弧トハ啮合ヲ解カレ尙槓桿ヲ旋回セバ其ノ初動ニ方リ駐子突出シテ螺体ノ相當溝部ニ入り以テ螺体ノ旋回ヲ不能ナラシメ爾後閉鎖機ハ槓桿ノ軸部及結合軸ヲ中心トシテ開機ス

ロ、閉鎖

槓木前項ノ反對ニ依リ閉鎖セバ駐子ノ頭部ハ砲尾後面ニ壓セラレ以テ螺体ト駐子トノ結合ハ解ケ齒桿ノ作用ニ依リ螺体旋回シ其ノねじ部ハ砲尾ノねじ部ニ入ル

軸 合 結



（一）用途

砲身ト駐退復座機トヲ連結シ鎖原軸ヲ兼ス

（二）機能

砲身（閉鎖機共）ヲ搖架ヨリ離脱スル場合大握把ノ溝ヲ上方トシ左方ニ引出セバ砲身ハ駐退復座機ノ接續ねじヨリ離脱シ砲身ヲ後方ニ離脱シ得結合ノ際ハ大握把ノ内側突起ガ結合軸頭ノ頭部起縁缺切部ヲ越ヘタル後下方ニ旋回セバ突出部ハ起縁ニ鈎シ其ノ結合位置ヲ保持ス
閉鎖機ヲ離脱スル場合
小握把ヲ握リ左方ニ引キテ止栓ヲ砲尾部ノ室ヨリ脱シ次デ之ヲ左旋回シテねじ部ヲ戻回シ結合軸ヲ左方ニ離脱シテ槓桿ヲ右方ニ離脱ス

構造及機能

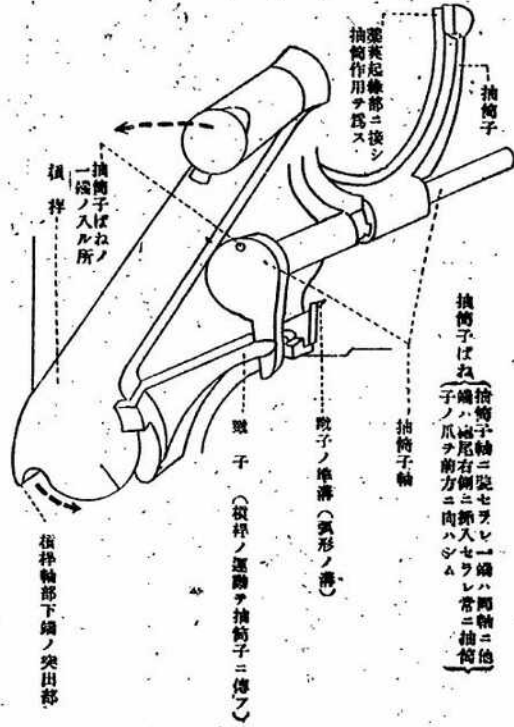
九二式歩兵砲取扱上ノ参考

8、抽筒装置

イ、螺体閉鎖時

ニ於ケル抽筒

子ノ關係位置



一二

ロ、抽筒作用

螺体ヲ開キ槓桿

桿旋回ノ終期

ニ至レバ槓桿軸部下端ノ

突出部ハ取扱い作用シ

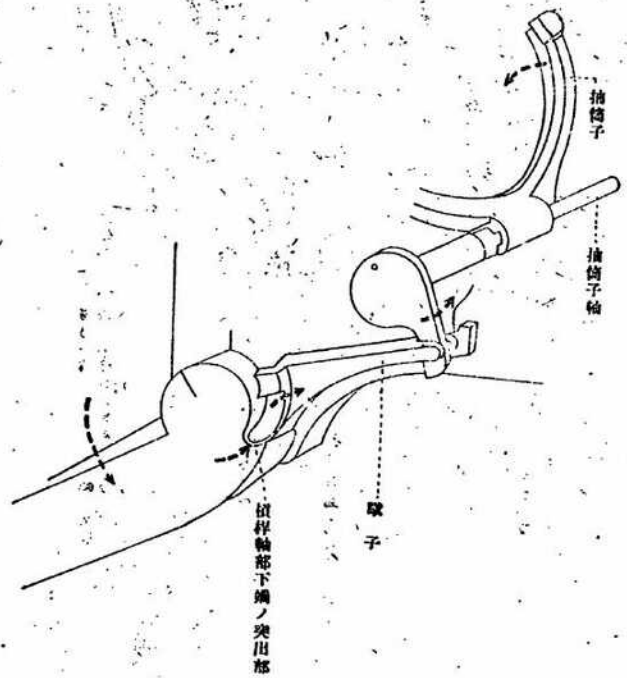
テハ抽筒子軸ニ作用シ之

ヲ旋回セシム然ルトキハ

同軸ニ裝シアル抽筒子ハ

後退ノ作用ヲ起シ空薬莖

ヲ蹴出ス



構造及機部

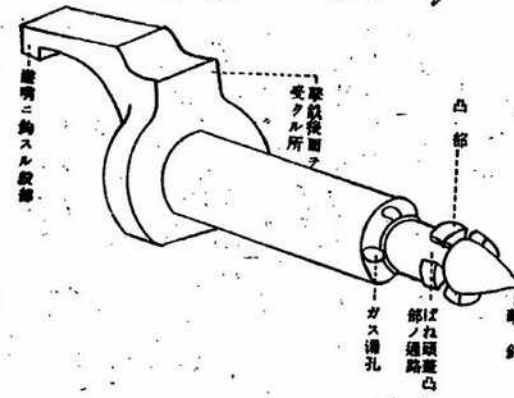
一三

九二式歩兵機銃取扱上ノ参考
三、擊發機及擊發裝置
1、擊發機

蓋頭れば莖撃

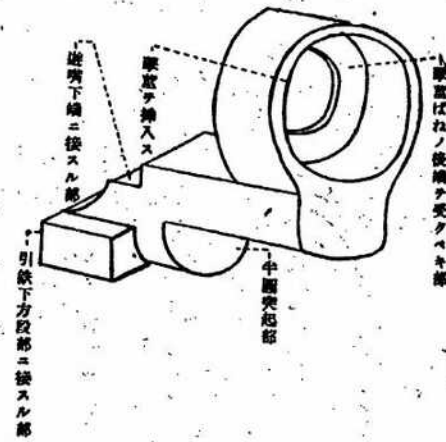


莖撃



一四

鉄撃

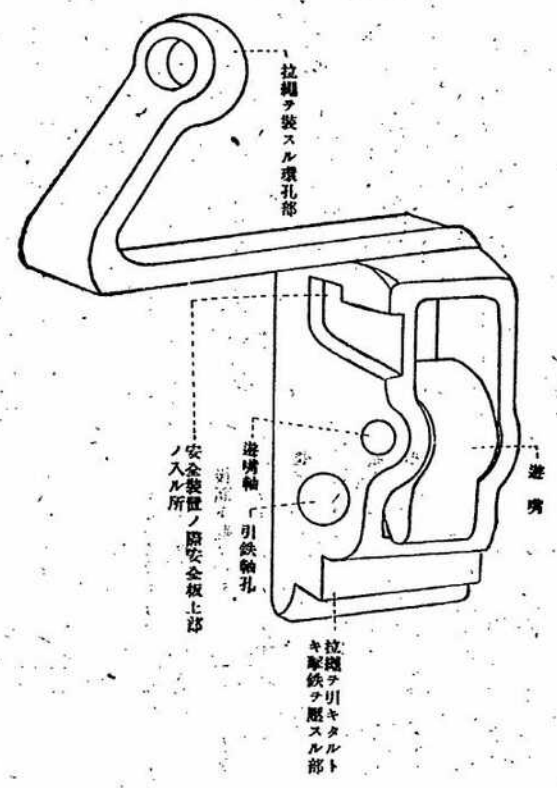


機銃及機銃

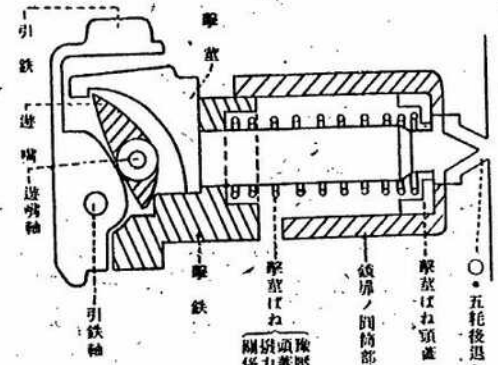
- 一、閉鎖機ノ閉鎖全カラザル場合ノ不時ノ發火防止
閉鎖全カラザルトキハ螺体ノ旋回不十分ニシテ其ノ後面下部ノ半圓孔部ハ擊鉄ノ半圓突起部ト相對向セザラテ以テ擊鉄ハ前進シ得ズ從ツテ擊發亦前進スル能ハズ依ツテ發火ヲ防止ス
- 二、發火ノ際ニ於ケル不時ノ開機防止
發火ノ際ハ前述ノ如ク擊鉄ノ半圓突起部ハ螺体ノ相當部ニ入りアルヲ以テ螺体ノ旋回不能ニシテ從ツテ開機スル能ハズ

一五

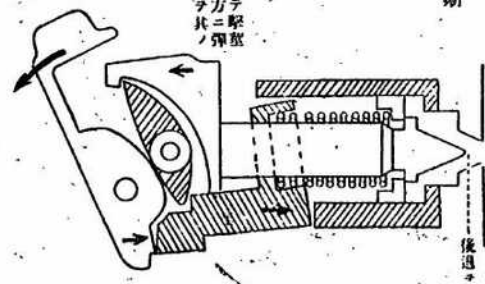
鉄 引



2. 擊發機關
イ、發射前



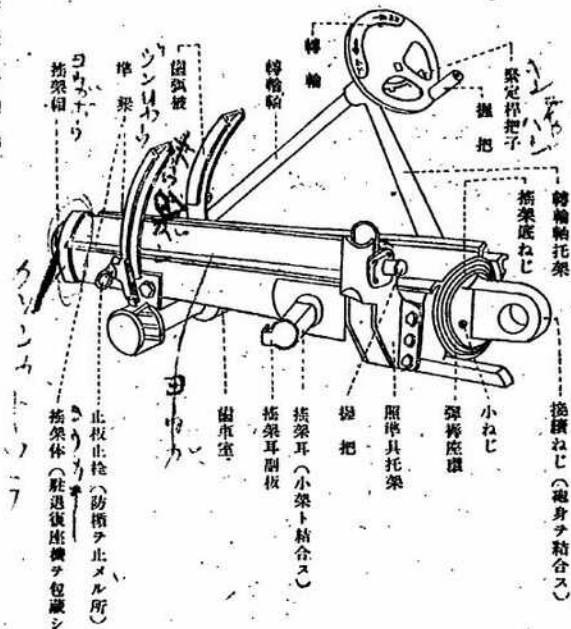
ロ、拉繩牽引ノ初期



構造及機能

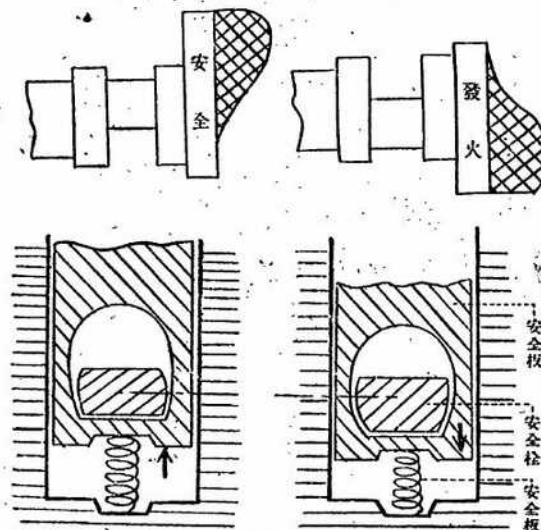
拉繩ヲ引クトキハ引鉄軸周ニ旋回シ遊嘴ニ擊鐵ヲ引ツツ
ハ擊鐵後退セシメ反對ニ擊鐵ヲ前方ヨリ壓ス此ノ際擊鐵ばね
ヨリ壓縮セラレ又擊鐵ノ半圓部ハ螺絲ノ同室ニ入り螺絲ノ
旋回ヲ防止ス

構造及機能



二二

安全發火



九二式步兵擧重機上ノ參考

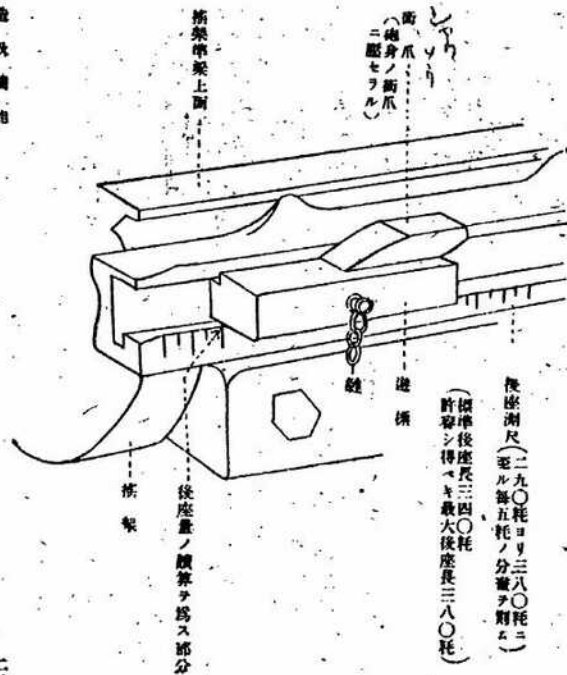
安全栓ト安全板トノ關係位置

安全栓ヲ「安全」ニ爲ストキハ其ノ半
 圓形部ハ半回スルヲ以テ安全板ハ押し
 上
 安全板ノ上部ハ引鉄ノ同量ニ入ルヲ以
 テ引鉄ヲ牽引スルコトヲ得ザラシム

二〇

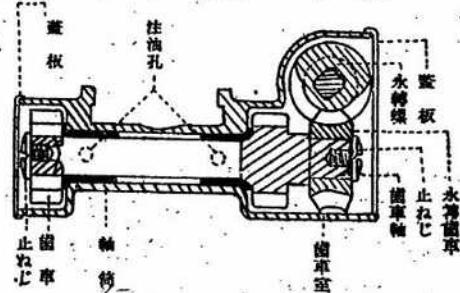
後座測尺遊標

構造及備油



1115

高低照準機ノ機能 (圖面斷)



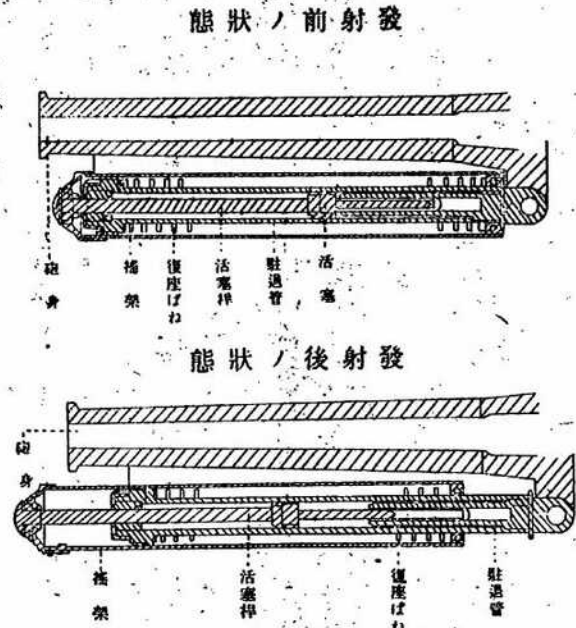
九二式歩兵砲取扱上ノ參考

1116

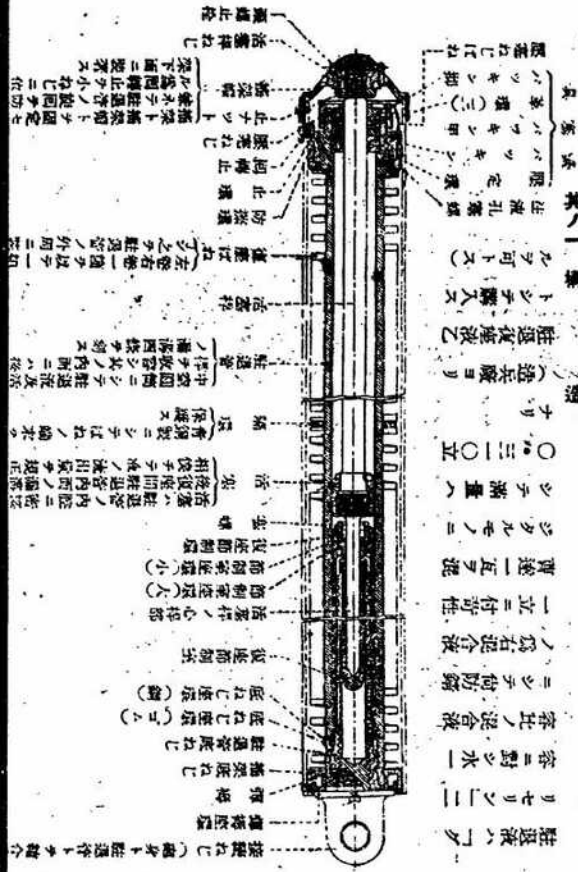
轉輪ヲ回轉スレバ轉輪軸尖端ニ裝シアル水筒蓋ヨリ水筒蓋車ヲ經テ齒車軸ヲ回轉ス而シテ齒車軸及齒車ハ小架ノ左右側板ノ齒弧ニ嚙合シアルヲ以テ挿架及砲身ハ挿架耳ヲ中心トシテ俯仰シ轉輪軸托架、轉輪軸及轉輪ハ挿架ニ固定シアルヲ以テ射角ニ應ジ其ノ位置ヲ變ス、

めくれず

構造及機能



其ノ二機 能



第四款 駐退復座機

九二式歩兵連隊以上ノ參考

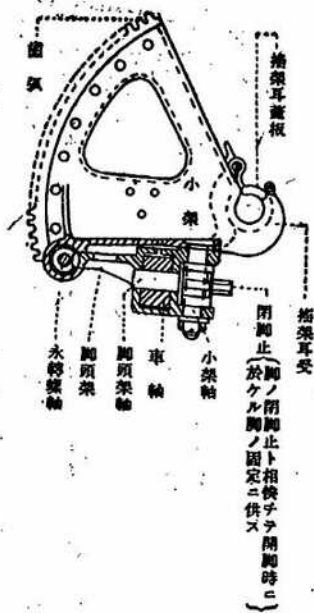
二、後座及其ノ節制

彈丸發射セラルルヤ砲身ハ後座運動ヲ始メ之ニ連結セル駐退管ハ後座ばねヲ壓縮シツツ共ニ後座スルヲ以テ前方ニ在ル液ハ活塞ニ依リ壓力ヲ加ヘラレツツ駐退管内面ノ漏溝ト活塞トノ間ニ生ズル漏孔ヨリ後方ニ流出スルモノトス而シテ其ノ漏孔面積ハ後座長約六〇乃至一〇〇耗間ニ於テ最大値ヲ取リ爾後漏孔面積ハ漸次減少シ後座速度緩慢トナリ終ニ後座運動ヲ停止セシメラル本砲ノ標準後座長ハ一號發藥ニ於テ三四〇耗トス

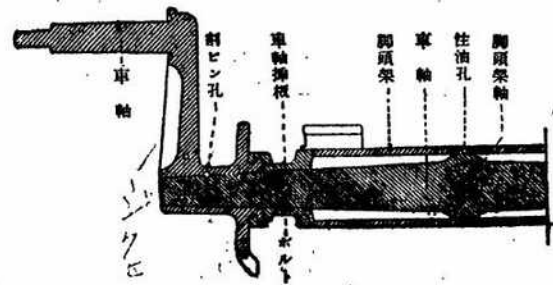
二、復座及其ノ節制

砲身ノ後座止ムヤ復座ばねハ其ノ彈力力ニ依リ砲身ヲ復座セシム此ノ際駐退液ハ前記ノ漏孔ヨリ逆流シ復座ヲ制限シツツ復座ス復座ノ終期ニ近ツクヤ活塞桿ノ心桿部ハ復座節制室ノ液ヲ壓排シツツ復座節制室ト相俟テ復座終期ニ於ケル激突ヲ防止ス斯クシテ各部ハ發射前ノ位置ニ復歸ス

第五款 砲架及方向照準機

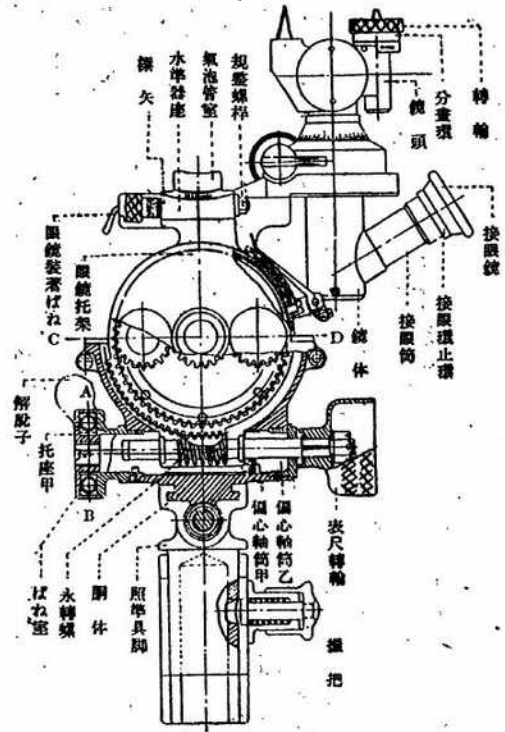


構造及機能



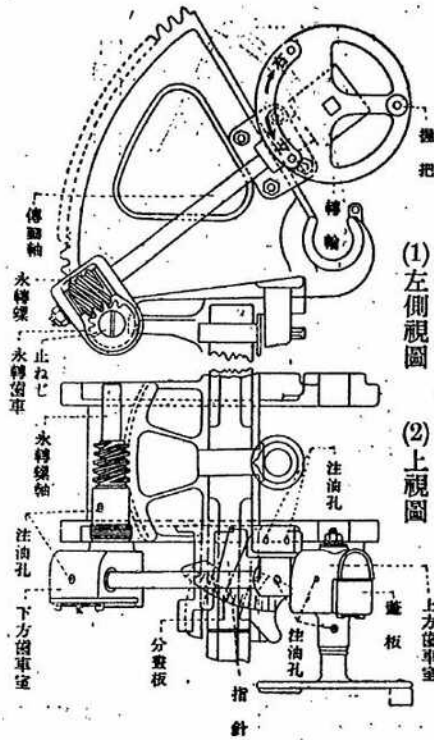
二七

側面圖



第六款 照準具

汎二式歩兵砲取上ノ器
方向照準機ノ機能

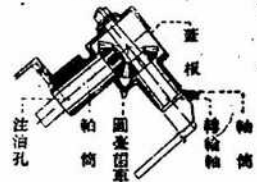


(1) 左側視圖

(2) 上視圖

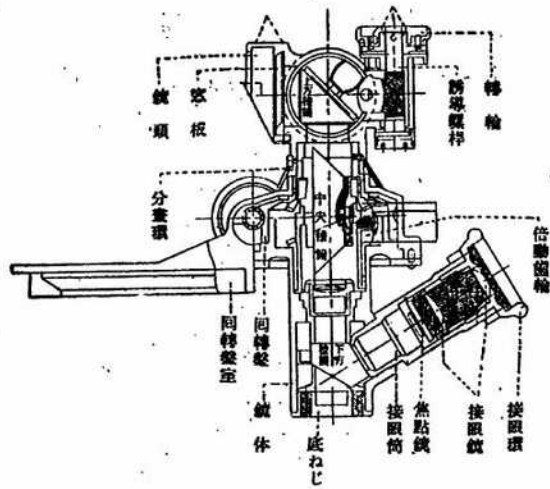
轉輪ヲ回轉スレバ轉輪軸ヨリ圓塞齒車ヲ經テ傳動軸ヲ回轉セシメ傳動軸尖端ニ裝シアル永轉ヨリ永轉齒車ヲ經テ永轉軸ヲ回轉ス永轉軸ノ永轉ハ脚頭架ノ齒弧ト啮合シアルヲ以テ小架以上ハ脚頭架標輪ヲ中心トシテ方向ヲ移動ス

上方齒車室



眼 鏡

構造及機能

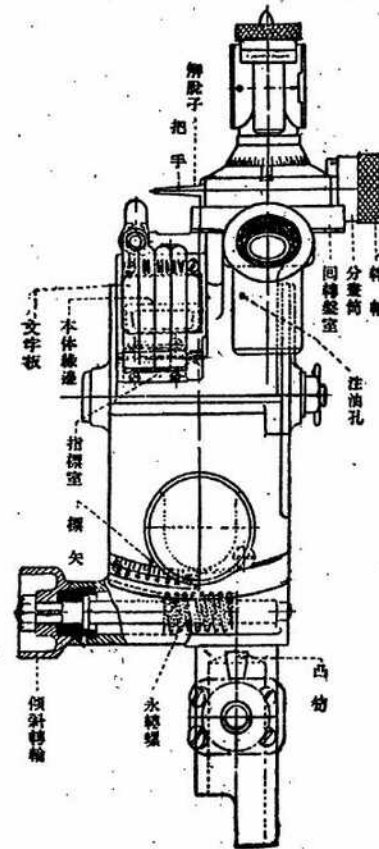


パノラマ眼鏡ニシテ倍率三、視界一三度即チ
一、〇〇〇米ニ付二二〇米ノ廣サヲ有ス表尺
高、方向角共ニ零位ニ在ルトキ照準線ハ砲身
軸ヲ含ム垂直面ヨリ左方八七耗ニシテ水平砲
身軸ヨリ高キコト二七二耗五、地上ヨリノ高
サ六七二耗五ナリ

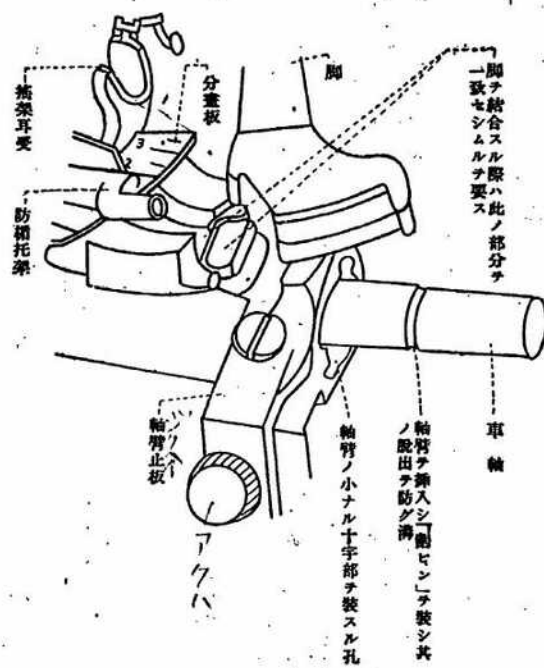
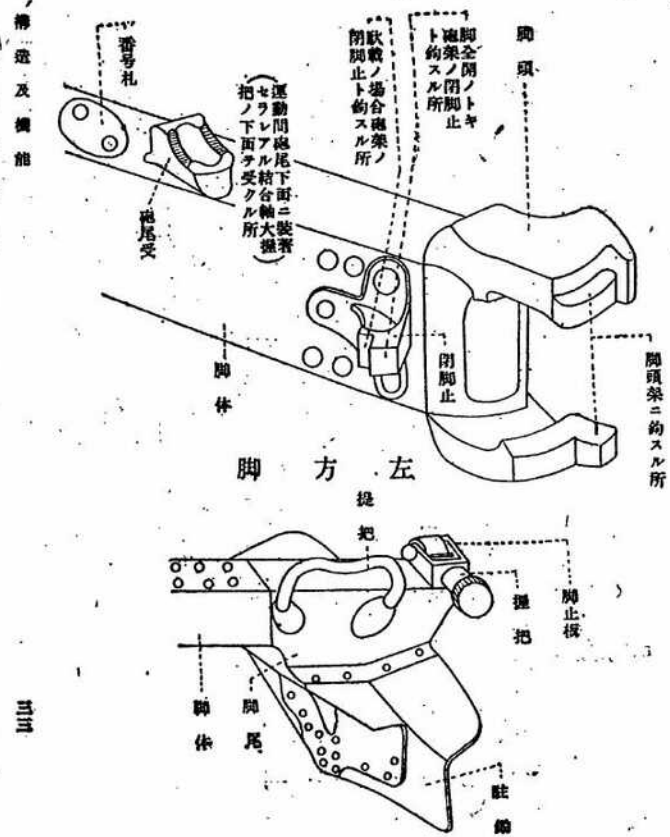
三二

後 面 圖

九二式歩兵砲取扱上ノ參考



三〇

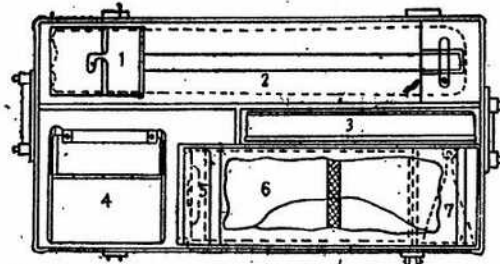


九二式歩兵靴取扱上ノ参考

第七款 脚 及 車 輪

構造及機能

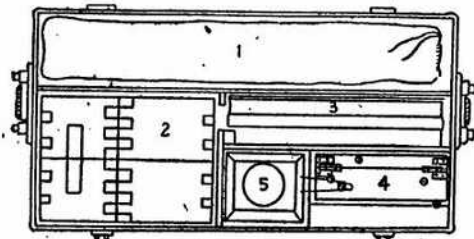
箱品屬一第



- 1、藥室洗棒(砲共)
- 2、復座ばね(袋共)
- 3、砲架準備品匣
- 4、提燈
- 5、ろろそく箱
- 6、各種スパナ
小自在スパナ
活塞桿頭ねじ及搖
架用スパナ
壓塞ねじ及駐退管
底ねじ用スパナ
復座節制室及塞螺
用スパナ
- 7、じょうご

第八款 屬品

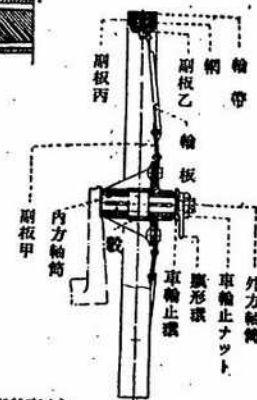
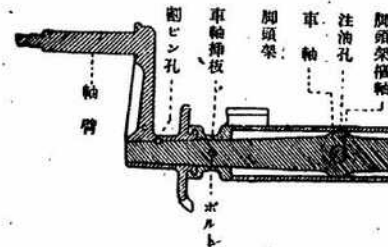
箱品屬二第



- 1、復座ばね(袋共)
- 2、眼鏡(匣共)
- 3、駐退復座機準備品匣
- 4、象限儀(匣共)
- 5、小油罐

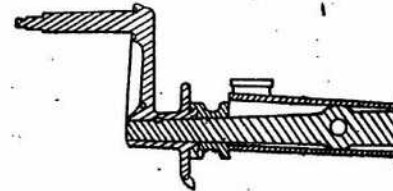
三五

圖常平



圖動擺

(合場ルス置位ニ所キ高モリヨ輪車左ガ輪車右)



九二式歩兵砲取扱上ノ参考

三四

第二節 分解及結合

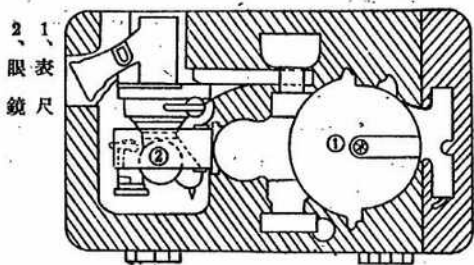
通 則

- 一、分解ハ規定ノ順序及方法ニ依リ之ヲ行ヒ結合ハ特ニ示スモノノ外分解ト反對ノ順序方法ニ依ルモノトス
- 二、分解結合ハ無理ノ力ヲ用ヒ或ハ急ギテ行フベカラズ特ニ構造機能ヲ十分知ラザル場合ニ於テ然リ
- 三、分解セル部品ハ順序正シク並べ粉失混同ヲ避ケ且汚染毀損セシメザルヲ要ス特ニ野外ニ於テ然リ
- 四、結合ニ方リテハ能ク部品ヲ拭淨シ要スレバ適度ニ塗油シ結合後ハ必ズ其ノ機能ノ適否ヲ點檢シ置クベシ
- 五、左記部品ハ分解スルコトヲ禁ズ
 - 照準具（眼鏡共）、照準具托架、象限儀、測角器
- 六、精密拭淨、射擊前後、修理等必要ナルトキ行フ分解結合ハ幹部ノ監督ノ下ニ行フヲ要ス
- 七、「スパナ」其ノ他ノ分解器具ハ手力ノ及バザルトキニ限り之ヲ使用シ確實ニ部位ニ挿入スルヲ要ス
- 八、ねじ及「ナット」ニ適合セザルねじ同或ハ「スパナ」ヲ使用スベカラズ
- 九、ねじヲ緊定スルニハ一應其ノ緊定方向ト反對ニ僅カニ廻ハシタル後挿入スルヲ可トス而シテ挿入困難ナルモノハ適度ニ力ヲ加ヘテ行ハザルヲ要ス
- 九、數箇ノねじヲ以テ螺著セルモノヲ戻回若クハ緊定スルニハ相對スルねじヲ交互平等ニ實施スベシ

分解及結合

三七

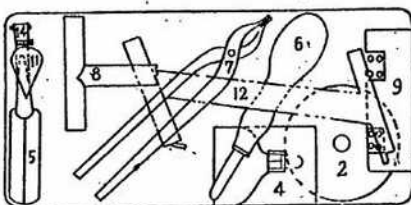
箱 具 準 照
(圖 視 上)



九二式步兵砲取扱上ノ參考

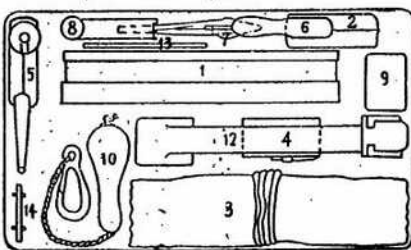
- 1、表尺
- 2、眼鏡

箱 帶 携
(圖 視 上)



- 1、閉鎖機豫備品箱（收入品共）
- 2、十米卷尺（收入品共）
- 3、ヤすり狭布（收入品共）
- 4、測角器袋（收入品共）
- 5、油、差
- 6、柄付ねじ同
- 7、仕上鉗

箱 帶 携
(圖 視 側)

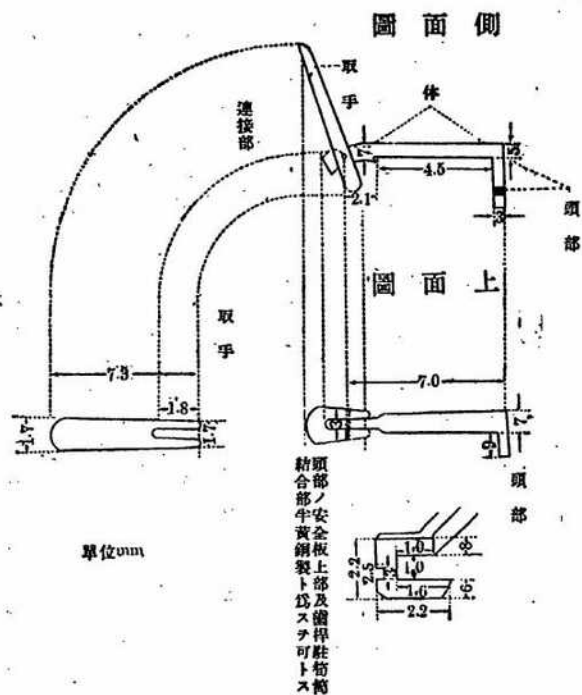


- 1、四〇年式莖莖爆管スパナ
- 2、豫備拉繩
- 3、垂球
- 4、眼鏡補助棒
- 5、漏流板
- 6、莖莖スパナ
- 7、仕上鉗
- 8、
- 9、
- 10、
- 11、
- 12、
- 13、
- 14、

三六

安全栓抜

分解及結合

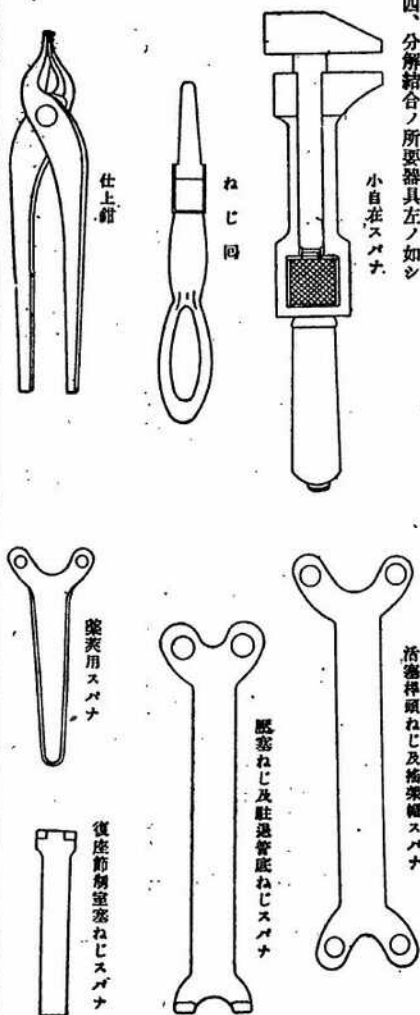


九二式歩兵銃取扱上ノ参考

十、鋼「ピン」ヲ裝セントキハ其ノ端末ヲ開キ置クベシ但シ發條性ヲ有スルモノニ在リテハ此ノ限ニアラズ
 十一、蔓巻ばねハ安リニ之ヲ伸縮スルコトナク又結合ニ際シ必要以外ニ力ヲ加ヘ全ク壓縮セシメザルヲ要ス平扁ばねハ必要以外ニ屈撓セシムベカラズ

三八

十二、分解及結合ノ困難ナルトキハ強ヒテ之ヲ行フコトナク幹部ノ指示ヲ待ツテ處置スベシ
 十三、分解結合ニ使用スル器具ハ完全ナラシメ置クヲ要ス然ラザレバ兵器ヲ毀損スルコトアリ
 十四、分解結合ノ所要器具左ノ如シ



第一款 日常ノ手入若クハ演習後ノ拭淨等ニ於テ行フ分解及結合

一、防箱ヲ分解スルニハ通常二名ニテ左ノ順序方法ニ依ル

分解ノ順序	方法	分解上ノ注意	結合上ノ注意
防箱	一、一名ハ搖架前方兩側ノ止栓ヲ引キ補助防箱支板ヲ脱ス 二、他ノ一名ハ防箱止板ノ握把ヲ上方ニ約九〇度旋回ス 三、防箱ヲ稍々前方ニ傾ケ補助防箱ト共ニ之ヲ上方ニ離脱ス	一、高低轉輪ヲ操作シテ砲身ニ射角ヲ與ヘザレバ轉輪ニ妨害セラレテ右方防箱止板ノ握把ノ旋回ヲ阻害セラル 二、補助防箱ヲ落下セシメテ砲身上面ヲ損傷スルコトアルヲ以テ防箱ノ保持確實ニシテ落下セシメザルヲ要ス	一、防箱ヲ砲身或ハ防箱托架等ニ擊突セシメザルコト 二、結合後ハ止栓握把ヲ完全ニ結合ノ位置ニ在ラシメ運動等ニ離脱スルコトナカラシムルヲ要ス
補助防箱	一、一名ハ搖架前方兩側ノ止栓ヲ引キ補助防箱支板ヲ脱ス 二、他ノ一名ハ防箱止板ノ握把ヲ上方ニ約九〇度旋回ス 三、防箱ヲ稍々前方ニ傾ケ補助防箱ト共ニ之ヲ上方ニ離脱ス	一、高低轉輪ヲ操作シテ砲身ニ射角ヲ與ヘザレバ轉輪ニ妨害セラレテ右方防箱止板ノ握把ノ旋回ヲ阻害セラル 二、補助防箱ヲ落下セシメテ砲身上面ヲ損傷スルコトアルヲ以テ防箱ノ保持確實ニシテ落下セシメザルヲ要ス	一、防箱ヲ砲身或ハ防箱托架等ニ擊突セシメザルコト 二、結合後ハ止栓握把ヲ完全ニ結合ノ位置ニ在ラシメ運動等ニ離脱スルコトナカラシムルヲ要ス

二、砲身ヲ分解スルニハ通常二名ニテ行ヒ左ノ順序方法ニ依ル

分解ノ順序	方法	分解上ノ注意	結合上ノ注意
結合軸	一、砲身ヲ略々水平ニシテ、結合軸ノ大握把ヲ取り外シ、溝ヲ真正ニシ左方ニ十分抽出ス		一、結合軸ハ砲身ノ前方準溝ノ前端ト搖架ノ準溝ノ前端トヲ一致セシメタルトキ其ノ挿入容易ナリ 二、結合後ハ大握把ノ溝ヲ真正ニ向ハシムルヲ要ス
大握把			

砲身	後座測尺遊標	土砂ヲ附着セシメザル如ク注意スベシ	一、砲身ヲ結合スル際ハ先ツ結合軸ハ左方ニ抽出セラレアリヤラ必ズ點檢スルヲ要ス 二、砲身ノ準溝部ヲ搖架準溝ニ擊突セシメザルコト 三、結合軸ヲ裝スルニ先ダテ後座測尺遊標ヲ裝スベシ
砲身	砲身ヲ稍々後退セシメタル後後座測尺遊標ヲ離脱ス 一名ハ洗桿ヲ握ルト共ニ砲身上面ニ手ヲ添ヘ他ノ一名ハ兩手ヲ以テ砲尾ヲ下方ヨリ保持シ砲身ヲ水平ニ保テツツ徐ロニ之ヲ後退シ搖架トノ結合ヲ解ク	一、砲尾ヲ下グルコトナク導板ノ延長上ニ後退セシムベシ 二、砲口部ヲ搖架上面ニ擊突セシメザル如ク注意スベシ 三、砲身ヲ分解セシ後ハ後座測尺遊標ヲ後座尺ニ挿入シ置クベシ	一、砲身ヲ結合スル際ハ先ツ結合軸ハ左方ニ抽出セラレアリヤラ必ズ點檢スルヲ要ス 二、砲身ノ準溝部ヲ搖架準溝ニ擊突セシメザルコト 三、結合軸ヲ裝スルニ先ダテ後座測尺遊標ヲ裝スベシ

三、閉鎖機ヲ砲身ヨリ分解スルニハ砲身ノ左側面ヲ下方ニシテ平置シタル後左ノ順序方法ニ依ル

分解ノ順序	方法	分解上ノ注意	結合上ノ注意
鎖桿	鎖桿ヲ約一二〇度旋回シ砲尾右側ノ標線ト鎖桿軸部外部ニ在ル標線ト一致シタルトキ鎖桿ヲ押し上テ鎖桿ヲ上方ニ離脱ス		鎖桿ト鎖原トハ一定ノ角度ヲ成サザレバ結合シ得ザルヲ以テ先ツ鎖桿ヲ挿入シ其ノ最後ニ於テハ鎖原ヲ僅カニ開キツツ挿入スルヲ要ス
鎖桿	鎖桿ヲ約一二〇度旋回シ砲尾右側ノ標線ト鎖桿軸部外部ニ在ル標線ト一致シタルトキ鎖桿ヲ押し上テ鎖桿ヲ上方ニ離脱ス		鎖桿ト鎖原トハ一定ノ角度ヲ成サザレバ結合シ得ザルヲ以テ先ツ鎖桿ヲ挿入シ其ノ最後ニ於テハ鎖原ヲ僅カニ開キツツ挿入スルヲ要ス
閉鎖機ヨリ鎖桿鎖桿ヲ引出ス			

分解及結合

取 子	齒桿 ヲ抽出ス。		
結 合 軸	左手ニテ閉鎖機ヲ支ヘ右手ニテ結合軸ノ小握把ヲ握リ下方ニ引キテ止栓ヲ砲尾部ノ室ヨリ脱シ次デ之ヲ左旋回シテねじ部ヲ戻同シ結合軸ヲ下方ニ離脱ス。		小握把ヲ確實ニ螺入シタル後其ノ定位ニ在ラシムベシ
閉 鎖 機	結合軸ヲ脱シタル後兩手ヲ以テ徐ロニ閉鎖機ヲ離脱ス。	閉鎖機ヲ離脱セバ螺体ノ前面ヲ下方ニシテ安置ス。	

四、砲身ヲ結合ノ後閉鎖機ヲ砲ヨリ分解スルニハ二名ニテ左ノ順序方法ニ依ル

分 解 ノ 順 序	分 解 ノ 方 法	分 解 上 ノ 注 意	結 合 上 ノ 注 意
槓 桿 子	槓桿ヲ約二〇度旋回シ砲尾右側ノ標線ト槓桿外部ニ在ル標線ト一致シタルトキ取子ヲ上方ニ押しテ槓桿ヲ右方ニ離脱シ同時ニ槓桿槓桿ノ取子ヲ離脱ス。	此ノ操作ハ二名ニテ協力シテ行ヒ特ニ槓桿槓桿及取子ヲ落サザル如ク注意スルヲ要ス。	槓桿ノ結合上ノ注意ハ前ニ同シ
小 握 把	左ニ旋回シテねじ部ヲ戻同シ結合軸ヲ左方ニ離脱ス。		
閉 鎖 機	閉鎖機ノ小握把ヲ離脱シタル後閉鎖機ヲ離脱ス。		
結 合 軸	小握把ヲ握リ左方ニ引キテ止栓ヲ砲尾部ノ室ヨリ脱シ次デ		

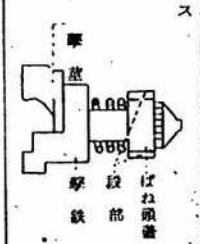
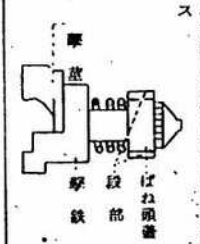

小 握 把	左ニ旋回シテねじ部ヲ戻同シ結合軸ヲ左方ニ離脱ス。
閉 鎖 機	閉鎖機ノ小握把ヲ離脱シタル後閉鎖機ヲ離脱ス。

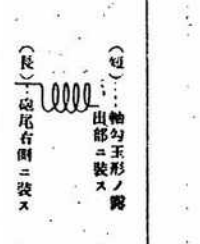
第二款 精密拭淨、射撃前後、修理等必要ナルトキニ行フ分解及結合

本分解結合ニ方リテハ必ず幹部ノ監視ヲ必要トス

一、閉鎖機ヲ分解スルニハ左ノ順序方法ニ依ル

分 解 ノ 順 序	分 解 ノ 方 法	分 解 上 ノ 注 意	結 合 上 ノ 注 意
安 全 栓	一、螺体前面ヲ下方ニ定置保筒ヲ手前ニ在ル如クシテ取上ニ安置ス。 二、安全栓ヲ安全板上部ト引鉄トノ間ニ挿入シ安全板ヲ壓下シ安全栓ヲ駐止位置ヨリ約四五度旋回セシメテ安全栓ヲ右方ニ抽出ス。	安全板ヲ壓下スルニハ安全栓拔ヲ使用スルヲ要ス。	一、安全板ヲ壓下シツツ安全栓ヲ結合スルヲ要ス。 二、安全板ばねノ位置不良ニ依リ安全栓ノ結合不能ノコトアルニ注意スルヲ要ス。
擊 發 機	安全栓ヲ抽出シタル後更ニ安全板ヲ壓下シツツ擊發機ヲ上方ニ引出ス。		引鉄結合ニ際シテモ安全板ばねノ位置ヲ點檢スベシ

解分ノ機發擊	同頭蓋	擊鉄	擊鉄	擊鉄	擊鉄	擊鉄	擊鉄	擊鉄		
引鉄ノ遊嘴ヲ擊蓋ノ後部ヨリ脱シ左手ニテ擊蓋ヲ握リ右手ニテ擊蓋ばね頭蓋ヲ壓シ約四五度旋回シテ擊蓋ヨリ擊蓋ばね頭蓋ヲ離脱シ擊蓋ばね、擊鉄ヲ分離ス	此ノ際齒桿駐筒ヲ分解シ能ハザルトキハ螺体ヲ分解シタル後之ヲ行フベシ	擊蓋機ヲ引出シ安全板ヲ稍ミ抽出シテ齒桿駐筒ヲ離脱ス	齒桿駐筒ヲ離脱シタル後安全板及同ばねヲ上方ニ離脱ス	一、螺体前面ヲ上方ニシテ置ク 二、右手ニテ駐筒ヲ壓シ左手ニテ螺体ヲ左ニ廻ハシテ齒桿ヲ引出ス	齒桿ヲ引出シタル後更ニ螺体ヲ左ニ約九〇度旋回シ上方ニ引出ス	螺体ヲ引出シタル後駐筒及同ばねヲ上方ニ引出ス	抽筒子ノ軸及抽筒子ばねヲ右方ニ抽出ス	抽筒子ヲ抽出シタル後抽筒子ヲ閉鎖機室ヨリ出ス	齒桿軸ヲ螺脱シタル後握把及握把ばねヲ脱ス	握把ばねヲ脱ス
擊蓋ばね頭蓋ノ結合ニ方リテハ左圖ノ關係位置ニ置クヲ要ス										
										
安全板ヲ挿入シタル場合ハ正シク當孔ニ裝セラレアリヤヲ點檢スルヲ要ス										
齒桿ト螺体ハ左ノ關係位置ニ依リ結合スベシ										
										

螺体	駐筒	抽筒子	抽筒子ばね	抽筒子ノ軸	抽筒子ノ軸及抽筒子ばねヲ右方ニ抽出ス	螺体ヲ引出シタル後駐筒及同ばねヲ上方ニ引出ス	螺体ヲ引出シタル後更ニ螺体ヲ左ニ約九〇度旋回シ上方ニ引出ス	齒桿ヲ引出シタル後更ニ螺体ヲ左ニ約九〇度旋回シ上方ニ引出ス	齒桿軸ヲ螺脱シタル後握把及握把ばねヲ脱ス	握把ばねヲ脱ス
螺体ノねじノ吻合ヲ解キタル位置ヲ考ヘテ結合セバ各部ヲ損傷セシムルコトナシ										
										

一、播架ヲ砲架ヨリ離脱スルニハ砲ヲ低姿勢ノ儘脚ノ閉脚止ガ取職ノ場合ノ砲架ノ閉脚止ト鉤スル所迄脚ヲ開キタル後
二名ニテ左ノ順序方法ニ依リ行フ
分解及組合

分解ノ順序	分解ノ方法	分解上ノ注意	結合上ノ注意
蓋板	一、蓋板ヲ略々水平ト爲ス 二、插架耳蓋板ヲ上方ニ開ク	略々水平トセザレバ蓋板ヲ開クコトヲ得ズ 各部ニ撃突セザル如ク注意ス	蓋板ハ插架ヲ略々水平ト爲シテ閉ツルヲ要ス
插架耳	高低準機ヲ旋回シ插架前方ヲ上方ニ上テ小架齒弧ト高低照準機齒車トノ嚙合ヲ脱ス	高低照準機ヲ以テ插架前方ヲ上方ニ上テ小架齒弧ト高低照準機齒車トノ嚙合ヲ脱シタル際ニ空轉ヲ行フトキハ齒車ヲ損傷スルヲ以テ他ノ一名ハ插架前端ヲ機ヲ失セズ上グルヲ要ス	高低照準機ノ齒車ト小架ノ齒弧トヲ嚙合セシムル際高低準機ノ回轉方向ヲ誤ルトキハ小架齒弧上端ニ反起ヲ生ズルヲ以テ必ズ「下ダ」ノ方向ニ回轉セシムルコト
高準機	二名ハ插架ノ上方ヲ握リ他ノ一名ハ插架下端ヲ支ヘテ協力シテ之ヲ先ツ上方ニ上テ插架室ヨリ插架耳ノ結合ヲ解キタル後前方ニ傾ケテ插架ヲ離脱ス	一、插架耳ヲ同室ヨリ上方ニ離脱スル際插架各部ヲ撃突セシメザルコト 二、照準具托架或ニ高低照準機等ヲ保持スベカラズ	同
照準機			上
插架			

三、軸臂(車輪共)ヲ砲架ヨリ分解スルニハ插架以上ヲ離脱シタル後左ノ順序方法ニ依ル

分解ノ順序	分解ノ方法	分解上ノ注意	結合上ノ注意
軸臂止板	一、脚頭架下面ニ適當ノ蓋ヲ置キ脚頭架以上ヲ安置ス 二、軸臂止板ヲ軸臂ノ突出部ヨリ脱シ約九〇度旋回シ軸臂ノ挿板ニ鈎ス(左右共)		
制ピン	軸臂ハ「制ピン」ヲ鎖ト共ニ抽ク(左右共)		軸臂ノ左右ヲ誤ラザルコト
軸臂	車輪ヲ兩手ニ持チ軸臂ヲ旋回シ垂線ニ對シ軸臂ノ腕ヲ約四五度前方又ハ後方ニ位置セシメ外方ニ脱ス(左右共)		

軸臂ヲ車輪ヨリ分解スルニハ左ノ順序方法ニ依ル

分解ノ順序	分解ノ方法	分解上ノ注意	結合上ノ注意
制ピン	制ピン、車輪止「ナット」、車輪止ナット		
車輪形環	形環、車輪止環ヲ脱ス		
車輪止環			
軸臂	車輪ヨリ軸臂ヲ脱ス		左右區別ヲ誤ラザルヲ要ス

分解及結合

四、脚ヲ脚頭架ヨリ離脱スルニハ車軸(車輪共)ヲ離脱シタル後左ノ順序方法ニ依ル

分解ノ順序	分解ノ方法	分解上ノ注意	結合上ノ注意
左 脚	一、脚ヲ全開ス 二、一名ハ脚頭架及小架ヲ擺動ナキ位置ニ保持シ他ノ一名ハ左脚ヲ右脚ニ接スル迄旋回スレバ左脚ハ脚頭架ヨリ離脱ス		第一節第七款ノ圖参照
右 脚	右脚ヲ左脚ト反對ニ旋回スレバ右脚ハ脚頭架ヨリ離脱ス		結合ハ右脚ヲ先ニスルヲ要ス

五、小架ヲ脚頭架ヨリ離脱スルニハ車軸(車輪共)脚ヲ離脱シタル後左ノ順序方法ニ依ル

分解ノ順序	分解ノ方法	分解上ノ注意	結合上ノ注意
割 ナ 座 金 ト	小架軸下方ノ割「ピン」「ナツト」座金ヲ脱ス		
小 架 軸	小架軸ヲ上方ニ抽出ス	正シク前方ニ離脱スルコト	小架歯弧ト脚頭架歯弧トハ結合ヲ爲ス際摩擦セザル如ク注意スベシ
小 架	小架ヲ前方ニ離脱ス		

六、脚頭架ヨリ車軸、車軸挿板及軸臂止板ヲ脱スルニハ軸臂(車輪共)脚及小架ヲ離脱シタル後左ノ順序方法ニ依ル

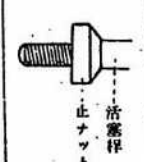
分解ノ順序	分解ノ方法	分解上ノ注意	結合上ノ注意
割 ビ 座 金 ト	左方又ハ右方ノ車軸挿板ノ割「ピン」「座金」「ボルト」ヲ脱ス		
車 軸 挿 板	車軸挿板ヲ外方ニ離脱ス		
脚 頭 架 軸	脚頭架軸ヲ後方ニ抽脱ス		
車 軸	脚頭架ヨリ車軸ヲ抽出ス		結合ノ際車軸ハ脚頭架軸ヲ中心トシテ常ニ左右ノ端上下スル爲中央ニ保持スルヲ要ス
軸 (小ねじ共)	軸臂止板ノ小ねじ及軸ヲ螺脱ス		

七、駐退復座機ノ分解ハ防盾及砲身ヲ離脱シタル後駐退管ヲ離脱シテ内部ヲ分解ス但シ先ツ駐退管ヲ若干抽出シ活塞桿、緊塞具ヲ分解シタル後行フヲ便トス

所要器具 (活塞桿頭ねじ、搖架軸「スパナ」小自在「スパナ」壓塞ねじ) 及駐退管底ねじ「スパナ」復座筒制緊塞螺「スパナ」

分解及結合

分解ノ順序	分解ノ方法	分解上ノ注意	結合上ノ注意
分解ノ順序	分解ノ方法	分解上ノ注意	結合上ノ注意
同 轉 止	搖架帽ノ小ねじヲ螺脱シ同轉止ヲ抽出ス		搖架帽ヲ確實ニ螺入シねじ部ヲ一致セシメテ同轉止ヲ螺著スベシ
活塞桿頭ねじ	頭螺止栓ヲ抽キ活塞桿頭ねじ「スパナ」ヲ以テ活塞桿頭ねじヲ螺脱ス		結合ニ方リテハ活塞桿ヲ若干抽出シ止「ナット」ヲ活塞桿ニ螺入シ次ニ搖架帽ヲ挿入シテ活塞桿頭螺ヲ螺入スルヲ可トス
插 架 帽	搖架帽「スパナ」ヲ以テ搖架帽ヲ螺脱ス		一、搖架帽内面ニハ適度ニ「ベトロラタム」ヲ塗布スベシ 二、ハントラ段メテ液状ト爲シタル後行フベシ以下同シ 三、搖架帽ヲ螺入スルニハ活塞桿頭螺ヲ螺入シテ頭螺止栓ヲ螺脱シタル後ヲ可トス
小 ね じ	搖架後端ノ小ねじヲ螺脱ス		接續ねじノ突出部ヲ垂直ナラシムルニ至ルハ小ねじノ相當孔ハ一致スルニ至ル
接 續 ね じ	小ねじヲ螺脱シタル後接續ねじヲ螺脱ス	接續ねじヲ同轉スルトキハ前方ヨリ駐退管ヲ壓シテ復座ばねヲ壓縮セバ其ノ解脫容易ナリ	同上ノ要領ニ依ルトキハ其ノ結合容易ナリ

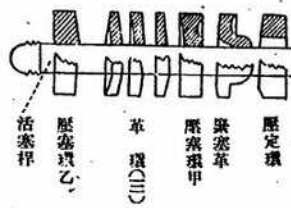
駐 退 管	復 座 ば ね	止 ナ ッ ト	壓 塞 ね じ	活 塞 桿	注 液 孔 塞 環 螺
駐退管ヲ復座ばねト共ニ前方ニ抽出シ分解ス		活塞桿ヨリ螺脱ス	活塞桿ヲ若干抽出シ壓塞ねじ「スパナ」ヲ以テ壓塞ねじヲ駐退管ヨリ螺脱ス	活塞桿及緊塞具ヲ抽出スルニ方リテハ之ヲ垂直ニ立テ臺ヨリ垂直ニ之ヲ抽出ス	駐退管ヨリ螺脱抽出ス
			此ノ際壓塞ねじニ作用セシメザルヲ可トス	活塞桿ヲ屈曲セシメザルコト之ガ爲抽出スル際ハ成ルベク下方ヲ振り操作スベシ	
一、駐退管ヲ分解シタルトキハ駐退液ヲ補充ス又ハ交換スルヲ要ス 二、外面ニハ適度ニ「ベトロラタム」ヲ塗布スベシ 三、ばねノ挿入ニ方リテハ仕切板ヲ入ルルコトヲ忘れベカラズ 左ノ關係位置ニ結合スベシ		 活塞桿 止ナット	結合ニ方リテハ適度ニ「ベトロラタム」ヲ塗布スベシ		

緊塞具

止「ナット」ヲ脱シタル後逐次上方ニ抽出ス

緊塞具ハ通常活塞桿ヨリ抽脱セズ分解セバ直チニ緊塞革ヲ麻糸等ヲ以テ膨脹セザル如ク緊縛シ置クベシ

緊塞具ノ結合ヲ誤ラザルコトニ注意スベシ特ニ緊塞環乙ノ方向ヲ反對ニ裝スルトキハ革環ノ機能ヲ不良ナラシムルノミナラズ環ノ凸面ト緊塞ねじノ平面トノ接觸ニ因リ緊塞環及緊塞ねじヲ共ニ變形セシムルコトアリ



緊塞具ヲ結合スル際打込用ノ補助具ヲ用フルトキハ容易ニ結合スルコトヲ得

駐退液

活塞桿ヲ駐退管ヨリ抽出シタル後液ヲ排出ス

駐退液ハ先ツ定量ヲ駐退管ニ容レタル後活塞桿及緊塞具ヲ結合ス此ノ際漏出セル液量ハ結合後注液「ポンプ」ヲ以テ注液孔ヨリ補足スルヲ要ス

第三節 取扱上ノ注意

第一款 教練上ノ注意

一、照準具

- 1、照準具ハ特ニ其ノ取扱ヲ丁寧ニシテ、塵埃等ニ對シ勉メテ之ヲ防護シ常ニ各部ノ遊隙及氣泡管ノ機能ニ注意スベシ又照準具ヲ裝著シタル儘ノ運動ハ成ルベク避クルヲ要ス
- 2、眼鏡ノ解子頭ヲ起シ之ヲ舊ニ復セントスルニハ靜カニ行フヲ要ス若シ解子舊位ニ復セザルトキハ再ビ之ヲ上方ニ壓シ少シク回轉盤ヲ廻ハシ自然ニ舊位ニ復セシムルヲ要ス
- 3、表尺ヲ照準具托架ニ著脱スルニ際シテハ之ト衝突セザル如ク注意スルヲ要ス然ラザレバ氣泡管「ガラス」等ノ破損ノ原因トナルノミナラズ表尺ノ梯形突筋等ニ打痕ヲ生ジテ精度ヲ害シ裝脱不能ニ陥ルコトアリ

二、砲身

- 1、結合輪ノ体ハ運動間ノ震動ニ依リ稀ニ回轉シ之ニ結合セル大握把ト軸頭トノ吻合ヲ解キテ左方ニ脱出シ之ガ發射ノ際又ハ運動間ニ於テ砲身後方ニ滑脱スルコトアルヲ以テ射撃ノ際ハ勿論運動間ニ於テモ之ガ解脫ニ注意スベシ

- 2、運搬ノ際ハ運搬姿勢ト爲シ砲尾ノ結合輪大握把ヲ砲尾受上ニ托シアルヲ要ス

- 3、低姿勢ニ於テ四五〇密位以上ノ射角ニテ射撃スル場合ハ砲尾下面ヲ掘下グルコトヲ忘ルベカラズ然ラザレバ強裝藥ニ於テハ砲尾ヲ地面ニ擊突セシムルニ至ルモノトス

高姿勢ニ於テハ此ノ必要ナキモ土地ノ不齊ヲ顧慮シ時間之ヲ許セバ若干砲尾下面ヲ掘下グルヲ可トス

三、橋架

- 1、照準具托架ト照準具トノ動搖ハ射撃精度ヲ不良ナラシムルヲ以テ其ノ取扱ハ特ニ注意スベシ

- 2、照準具ハ托架取附「ボルト」ノ封鎖切斷スルトキハ「ボルト」ノ緩解ニ因リ托架ノ動搖ヲ來ス虞アルヲ以テ之ガ保護ニ注意スルヲ要ス

若シ切斷セルトキハ代用品ヲ以テ速カニ封鎖修理ニ出スベシ

四、砲架

- 1、橋架ヲ小架ニ裝脱スルトキ橋架耳蓋板ノ螺番部ニ擊突シ之ヲ毀損セシメザルコトニ注意スベシ

- 2、砲架ノ姿勢變換ニ際シテハ橋架端ヲ保持スルハ止ムヲ得ザルモ曲弧ノ保存上脚ノ起部ヲ保持シテ之ヲ補フヲ可トス

尙此ノ際砲身ハ俯角ノ最大限附近トシテ行フヲ有利トス是最大俯角附近ハ使用稀ニシテ縱ヒ若干廢滅スルモ射撃ニ影響スルコト少キヲ以テナリ姿勢ヲ運搬姿勢ニ變換ノ際車輪ノ十字部ヲ車輪挿板ニ擊突セシメザル如ク注意スルヲ

取扱上ノ注意

五五

要ス

3、高姿勢ニ在リテハ姿勢變換ノ場合ノ外車軸止板ニ觸ルベカラズ若シ不注意ニ依リ旋回セバ車軸ハ何等駐定スルコトナキヲ以テ車軸ハ旋回シ脚頭架以上ハ不意ニ落下シ砲ヲ毀損セシムルコトアルヲ以テナリ

五、照準機

1、高低照準機、方向照準機ノ動搖ハ射撃ノ精度ヲ不良ナラシムルヲ以テ常ニ其ノ取扱ニ注意スルヲ要ス

2、照準機轉輪ハ「アルミニウム」合金製ニシテ外物トノ衝突ニ因リ變形スルコトアルヲ以テ取扱ニ注意スベシ

3、各部ノ小ねじ及封線ヲ切斷セザル如ク常ニ注意スルヲ要ス

4、運動間ニ於テハ高低轉輪ノ緊定ヲ十分ニ行フヲ要ス

六、撃發機關

1、射撃操作ノ訓練ニ於テハ必ず擬製彈ヲ使用スベシ

其ノ他ノ場合ニ於テモ極力空撃ヲ避クルヲ要ス

擬製彈ヲ使用スルニ方リテハ其ノ爆管ノ機能ハ完全ナルモノヲ使用シ擊發尖端ヲ損傷セシメザル如ク注意スルヲ要ス

2、閉鎖機ノ開キ方不活潑ナルトキハ駐子突出セザルコトアリ之ガ爲螺絲ノねじ及砲尾ノねじ部ニ反起ヲ生ジ且螺絲ト鎖屏トハ全開ノ位置ニ閉結セラレザル爲閉鎖ニ際シ螺絲ハ橫轉シ砲尾後面ニ斷隔ねじヲ擊突セシムルニ至ルコト

多シ

故ニ閉鎖機ヲ開ク際槓桿ハ其ノ初動ニ於テ短切ナルカヲ加ヘ爾後十分之ヲ下方ニ開ク如ク注意ヲ必要トス

3、裝填ノ際ハ勉メテ水ク彈底ヲ支ヘアルヲ要ス然ラザレバ一旦裝填シタル彈藥筒ガ後退シテ螺絲前面ヲ裝裝起縁部ノ爲ニ損傷セシムルコトアリ持ニ曲射姿勢ニ於テ然リ

4、彈藥筒(乙)ヲ裝填スル際ハ左ノ事項ニ注意スベシ

イ、彈藥筒ヨリ彈藥筒ヲ出ストキハ彈頭ヲ上ゲル氣持ニテ引出シ彈筒ト彈體トヲ分離セザル如クスベシ

ロ、裝填ニ方リテハ彈丸ノ抽脱シアラザルコト

七、屬品箱及彈藥箱

1、屬品箱ハ其ノ填實ヲ確實ニシ要スレバ木綿等ノ類ヲ以テ空部ヲ充塞シ運動間裝填品ノ動搖セザル如ク注意スベシ

2、屬品及豫備品等ニシテ合番號ヲ有スルモノハ他ノ砲ノモノト混淆スベカラズ

3、彈藥箱ハ外部特ニ蓋止ヲ擊突ノ爲損傷セシムルコトナキ如ク取扱ニ注意スベシ又信管筒ヲ彈藥箱ニ收納スルニ方リテハ蓋ノ螺著ヲ完全ニシ且其ノ底部ヲ確實ニ托架ノ相當孔ニ挿入スルヲ要ス然ラザレバ彈藥箱ノ蓋ヲ裝スル際信管ヲ毀損スルコトアリ

八、其ノ他

1、脚ヲ開ク際ハ脚頭架ニ注目シツツ行ヒ該部ヲ毀損セシメザル如ク注意ヲ要ス

取扱上ノ注意

2、駄載、分解搬送等ニ方リ砲ヲ結合スルニ際シテハ各座標部ニ塵埃、土砂ノ附著セルモノハ之ヲ拭淨シ要スレバ油スルヲ要ス

第二款 射撃上ノ注意

其ノ一 射撃前

- 一、實彈射撃ノ爲準備點檢スベキ事項
 - 1、各部ノ機能特ニ照準具及照準機ノ機能
 - 2、結合ノ状態特ニ日常分解セザル部分ノ緩解脱落ノ有無
 - 3、駐退復座機ノ分解點檢
 - 駐退液ノ量ヲ點檢シ補充ス
 - 夏季射撃ニ於テハ滿量ヨリ僅カニ減量トスルヲ可トス
 - 4、照準機點檢
- 二、射撃直前ニ於テハ左ノ點ニ注意スベシ
 - 1、結合輪ハ確實ニ嵌著シアリテ導板ハ清潔ニシテ塗油十分ナリヤ
 - 2、砲腔、閉鎖機各部ノ塗油適度ニシテ機能良好ナリヤ

- 3、擊針ノ位置及其ノ突出量適度ナリヤ
- 4、彈藥ニハ塵埃、土砂附著シアラザルヤ
- 5、彈軸ノ整正ナラザルモノ彈丸定心部ノ塗料過厚ナルモノナキヤ

其ノ二 射撃間

- 一、射撃間(直後ヲ含ム)ノ點檢ニ於テハ特ニ左ノ件ニ注意スベシ
 - 1、火薬「ガス」漏洩セザルヤ又擊針孔ヨリ侵入セル煤粉ノ爲擊葦ノ運動ヲ妨害セララルコトナキヤ
 - 2、閉鎖機及同室ノ前面若クハ裝葦等ニ煤渣等ノ附著セル爲閉鎖機ノ開閉、彈藥筒ノ裝填及裝葦ノ取出ニ滯滞ヲ生ゼザルヤ
 - 3、後復座ノ状態適當ナリヤ
 - 後座長ハ規定ニ合スルヤ
 - 後座長ハ一號裝葦ノ場合ハ三四〇耗ヲ標準トスルヲ以テ若シ三二〇耗ヨリ小ナルカ三六〇耗ヨリ大ナルトキハ其ノ原因ヲ調査スベシ
 - 三、四號裝葦ノ場合ハ後座長ハ小ナルヲ以テ後座測尺遊標ニ感ゼザルヲ通常トスルモ後復座間ニ異常ヲ認メタル場合ハ直チニ其ノ原因ヲ調査スベシ
 - 後座ノ速度概ネ整齊ナリヤ又復座ノ終期ニ激突セザルヤ

後復座ノ際播架内ニ札音(復座ばね折損ノ爲)ヲ發セザルヤ、復座不足ヲ生ゼザルヤ
 4、駐退液漏出セザルヤ
 駐退液ノ漏出スルハ其ノ原因「パツキン」又ハ革環ノ損廢ニ依ルコトアルモ多クハ駐退管底塞ねじ又ハ注液孔塞ね
 じノ緊定不十分ナルニ基因スルヲ以テ先ツ該部ヲ検査スルヲ要ス
 5、準溝、照準機等ノ各摩擦部ニ油ノ缺乏セルコトナキヤ
 6、小ねじ、制「ピン」等緩解脱落セルモノナキヤ
 7、彈藥ノ點檢ハ其ノ一ニ同ジ
 二、射擊間ノ主ナル故障ノ種類、原因及排除法左ノ如シ

種 類	原 因	排 除 法	摘 要
不 發	擊彈打撃不十分	更ニ引手ヲ強ク引ク	彈藥筒乙ヲ使用スルトキハ裝填不能ヲ生ジ彈丸ノミ砲腔内ニ殘置セラルルコトアリ
	爆管故障	豫備爆管ト交換ス	
	擊座ばね衰損	交換ス	
	塗渣ノ爲擊座ノ衝撃ノ妨害	分解手入ス	
	股寒ノ爲塗油凝結	油ヲ除去對寒性油ヲ塗布ス	
擊座尖端磨損或ハ折損	交換ス		

復 座 不 能	後 座 大 長	復 座 不 足	復 座 終 期 突 激	抽 彈 不 良
彈藥ニ多量ノ塗渣異物ノ附着 彈藥ノ不良	駐退液ノ不足 活塞ノ磨損 復座ばねノ衰損又ハ折損	復座ばねノ衰損又ハ折損 連續射撃ノ爲駐退液ノ膨脹	駐退液ノ不足 復座節制環及活塞ノ磨損	藥莖ノ燒著キ(横殺)
一、彈藥ヲ抽出シ要スレバ藥莖ヲ手入ス 二、彈藥ノ抽出不能ナルトキハ砲口ヨリ洗桿ヲ以テ徐々ニ衝キ出ス	滿量ニス 豫備品ト交換ス	豫備品ト交換ス 要スレバ少量ノ液ヲ排出ス	滿量ニス 豫備品ト交換ス	一、殘存セル藥莖ノ後端ヲ數箇所切断シテ之ヲ内方ニ折屈ガ砲尾ヨリ口徑ト略々同大ノ丸太ヲ裝シ之ヲ押サヘ砲口ヨリ藥莖ノ口徑ヨリ小ナル丸太ヲ挿入シテ前方ヨリ之ヲ打ツトキハ容易ニ抽出スルコトヲ得
彈藥筒乙ヲ使用スルトキハ裝填不能ヲ生ジ彈丸ノミ砲腔内ニ殘置セラルルコトアリ	後座測尺遊標ばね衰損シ倍力ニ依リ更ニ後退シ過大ト誤認スルコトアルヲ以テ注意スルヲ要ス	曲射ノ場合復座不足ヲ生ズルモ片手ニテ容易ニ復座セシメ得ル程度ノモノハ差支ナシ	接續藥莖ノ燒著ノ結果其ノ後部ノミ抽出シ來ルモ藥莖ノ前部ハ藥莖内ニ殘存シ其ノ抽出困難ナルコトアリ	抽彈不良

取扱上ノ注意

撃撃突出シタル 信戻ラズ	抽筒子折損	二、本排除法ニ依ルトキハ特 ニ砲腔、薬室内ヲ損傷セシ メザル如ク深甚ノ注意ヲ必 要トス 三、又ハ薬莖拔ヲ以テ抽出ス
撃撃ばね折損	交換ス	
	ばねヲ交換ス	

其ノ三 射撃後

射撃後ノ點檢ハ砲各部ニ就キ其ノ一、其ノ二ニ準ジ綿密周到ニ行フヲ要ス

第三款 極寒時及風塵時ノ注意

其ノ一 極寒時ノ注意

- 一、油上ノ注意
- 1、極寒時ニ於テハ「スピンドル」油ヨリモ耐寒性「スピンドル」油ヲ有利トスルモ之ヲ得ラザル場合ハ「スピンドル」油ニ石油ヲ混ズルヲ要ス（幹部ノ指示ニ依ル）石油ヲ混合セシトキハ良ク振リテ混合ヲ確實ナラシムルヲ要ス
 - 2、混合油ヲ使用シケルトキハ發射シ易キヲ以テ特ニ手入ニ注意スルヲ要ス
 - 3、溫暖ナル室内ニ長ク放置スル場合ハ混合油ヲ除去シ置クヲ要ス
 - 4、極寒時脂肪凍結スルトキハ機能ヲ害スルヲ以テ筆口ノヲ拭淨スルヲ可トスルコトアリ
 - 5、此ノ場合急ニ室内ニ搬入スルトキハ水分鐵部ニ凝結シ其ノ蒸發ト共ニ發錆スルヲ以テ速カニ露滴ヲ拭淨シ適度ニ施油スルヲ要ス
 - 6、「ベトロラタム」ハ極寒時固結シ機能ヲ害スルノミナラズ之ヲ除去スルコト困難ナルヲ以テ「ワセリン」ヲ以テ代用スルヲ可トス
 - 7、革具ハ寒氣ノ爲其ノ水分凍結シ屈撓ニ依リ容易ニ龜裂シ又ハ折損ス故ニ屋外ニ在リテハ勉メテ革具ノ屈撓ヲ避ケ又室内ニ在リテハ直接暖氣ニ觸レザル如ク別室ニ置クヲ可トス又革具ノ給油ハ溫暖ナル室内ニ暫時放置シテ給油回数ヲ増加スルヲ可トス
 - 8、運動上ノ注意

- 1、金屬特ニ薄キ扁平ばね類ハ折損シ易クナルヲ以テ急激ナル力ヲ加フルコトヲ避ケベシ
- 2、凍結地ニ於テ駐鋤ノ尖端ノミヲ地面ニ托シテ射撃スルトキハ該部ニ屈曲ヲ生ズルコトアルヲ以テ土囊、雪囊等ヲ取扱上ノ注意

めくれず

- 敷置シ爾力ヲ殺和セシムル如ク注意スルヲ要ス
- 8、塗油凍結ノ爲砲尾機關ノ機能特ニ擊撃ばねノ彈力カヲ妨ゲ時ニハ擊撃孔ヲ堵塞シテ擊撃ノ進出ヲ妨害シ不發トナルコトアルニ注意ヲ要ス
 - 4、表尺、眼鏡等ノ照準部ノ施油凍結シテ不動トナリ又ハ遊動圓滑ヲ缺クトキハ強力ヲ以テ操作スルコトナク先ツ之ヲ温メテ徐ロニ緩解スルヲ要ス
 - 5、解子ノばねハ折損シ易クナルノミナラズ油ノ凍結ニ依リ移動モ亦困難トナルヲ以テ無理ナル操作ニ陥リ折損スルコト多キヲ以テ注意スルヲ要ス
 - 6、眼鏡ノ鏡面ニ氷雪ノ附著シタルモノヲ徐ト速斷スルコトアリ又之ヲ除去スル場合之ニ疵ヲ生ゼシメザル如ク注意スベシ
 - 7、鏡面ニ呼吸ヲ掛クルトキハ其ノ外面ニ氷結シテ透視ヲ妨グルヲ以テ視視ニ際シテハ一時呼吸ヲ止ムルヲ可トス又呼吸ニ依リ照準具ノ表面氷結シテ其ノ機能ヲ害スルコトアルヲ以テ注意スベシ
 - 8、眼鏡ヲ温カキ室ヨリ急ニ低温ノ野外ニ持出ストキハ露ノ爲内部ニ又室外ヨリ特込ムトキハ外部ニ曇ラズルコトアルヲ以テ眼鏡類ハ温カキ室ヨリ持込マザル如ク注意スルコト必要ナリ
 - 9、爆管底面ニ在ル脂肪及水分凍結シテ不發ヲ生ズルコトアルヲ以テ發射ニ先グチ爆管底面ノ固著物ヲ十分ニ除去ス

其ノニ 風塵時ノ注意

- 一、外部ノ塗油量ヲ輕減シ又ハ之ヲ拭除シ且使用直前迄各部ノ被ヲ裝スベシ
- 被ノ内部ハ常ニ清淨ニシ塵埃ヲ除去シタル後之ヲ裝スベシ
- 二、搖架、導板等ニ土砂ノ附著シタル儘動カストキハ擦傷ヲ生ズルヲ以テ注意スベシ
- 搖架上面砲身滑動部ニ土砂侵入スルトキハ復座機能ヲ害スルヲ以テ射撃中ト雖モ勉メテ拭淨スベシ
- 三、塵埃ノ除去ニ方リテハ輕ク何回モ拭ヒ強ク拂拭スルコトハ戒ムルヲ要ス
- 四、砲腔ヲ拭淨スルニハ先ツ木棉等ヲ洗淨ニ輕ク巻キ十分脂肪油ヲ含有セシメ砲尾ヨリ挿入シテ徐々ニ砲口ヨリ出シ要スレバ之ヲ復行シタル後通常ノ手入ヲ行フベシ
- 五、蓋ナキ注油孔ニハ要スレバ毛絲、綿ノ類ヲ挿入シテ塵埃ノ侵入ヲ防止スベシ
- 六、眼鏡面ニ附著セル塵埃ハ手入筆、羽毛等ニテ氣長ク除去シテ等ヲ以テ拂拭スベカラズ

めくれず

第四節 手 入

要 旨

- 一、火砲ノ手入ハ其ノ實施ノ程度ニ應ジテ必要ノ部分ヲ分解シ且成ルベク風塵ヲ避ケ得ル場所ヲ選定シテ行フベシ尙要スレバ風除ヲ設ケ又ハ其ノ周圍ニ撒水スル等ノ處置ヲ講ズルヲ可トス
- 二、手入用具ハ機能良好ニシテ火砲ヲ損傷スルノ虞ナク且塵埃等ノ附著セザルモノヲ使用スルヲ要ス

第一款 常用品ノ手入

其ノ一 普通手入

通 則

- 1、常用品ノ普通手入ハ日常之ヲ行フノ外使用時ニ於テ所要ノ手入ヲ實施スルモノトス
- 2、砲腔ハ砲身ノ要部ニシテ腔面ノ良否ハ直接命中精度及砲ノ命數並ニ腔發ノ誘起ニ至大ノ關係ヲ有スルヲ以テ之ガ保存手入ニハ十分周密ナル注意ヲ拂フベシ
- 3、索地部ニ發射セルモノノ手入ハ燈油(要スレバ燈油ヲ浸マセタル木賊)ヲ使用スルコトヲ得ルモ使用後ハ油氣ヲ十分ニ拭除スルヲ要ス

一、日常手入

日常ノ手入ハ左ノ要領ニ依リ實施スルモノトス

區 分

實 施

要 領

區 分	實 施	要 領
砲 腔	一、通常閉鎖機ヲ離脱シ砲口保護器ヲ使用シ洗桿頭ニ乾布ヲ纏ヒ腔内ヲ進退シテ拭淨スベシ 砲口保護器ヲ有セザルトキニハ洗桿頭ヲ以テ砲口ヲ偏摩セザル如ク砲身ニ角度ヲ附與スルヲ可トス 二、手入ノ際手入具ヲ砲口、砲尾及葉室線端等ニ懸突セシムルコトナク又過度ノ拭摩ニ依リ腔面ヲ摩損セシメザルコトニ注意シ尙腔面ニ塵埃、土砂等附著セルトキハ先ヅ之ヲ除去シタル後拭淨ヲ行フベシ 三、腔縫起部ハ砲腔中特ニ緊要ノ部分ナルヲ以テ常ニ細密ナル點檢ヲ行ヒ手入、塗油ヲ十分ニシ防錆ヲ完全ナラシムルヲ要ス 四、手入ハ腔面ノ状態ニ應ジ乾布ヲ以テ之ヲ拭淨シタル後「スピンドル」油ヲ塗布シ又ハ腔中油ヲ浸マセタル布片ヲ洗桿頭ニ纏ヒ砲口ヨリ葉室ニ至ル迄等齊ニ塗布シ數時間乃至十數時間放置シテ發射ノ素因タル煤渣等ヲ溶解セシメ布片ヲ以テ之ヲ拭淨シタル後「スピンドル」油ヲ塗布スベシ 五、腔面ニ塗油スルニハ油ヲシテ完全ニ空面ニ行渡ラシムルコト肝要ニシテ洗桿頭ニ清淨ナル布片ヲ纏ヒ周圍ニ十分油ヲ塗リテ用ヒ腔縫ノ隅角内ニ普及セシメタル後布片ヲ減シ更ニ隔増上面其ノ他一般ニ普及セシムベシ 六、葉室前部、圓蓋連接部及腔縫ノ起部等錆又ハ汚垢ノ除去困難ナル部分ハ常ニ十分注意シテ之ガ除去ニ勉メ又既ニ煤塵、腐蝕ヲ生起セルモノハ其ノ程度ニ應ジ竹楊枝等ヲ使用シテ特ニ綿密ナル手入ヲ行ヒ稍々多量ニ塗油スベシ	
身 腔		

機銃	砲	
	外	室機銃閉
<p>一、閉鎖機ハ通常離脱シテ各部ヲ分解シ拭淨スベシ</p> <p>二、各部ノ拭淨ニ方リテハ附著セル塵埃、汚垢ヲ十分除去シ又雨雪天ノ際水漏ヲ蒙リタルトキハ十分拭淨シ水漏ノ影響ヲ受ケザル如ク注意スベシ</p> <p>三、分解手入ヲ行フトキハ擊發室其ノ他ノ隅角部溝等ハ布片ヲ纏ヒタル木又ハ竹片ヲ以テ拭淨シ閉鎖機開閉機關タル槓桿ノ摩擦部齒桿齒ノ齒部、槓桿把手ノ吻入スベキ缺切部等其ノ結合後外部ニ現レザル摩擦部ニハ拭淨後「バラワセリン」ヲ塗布シ其ノ他ノ素地部ニハ拭淨後「スピンドル」油ヲ普ク塗布スベシ又注油孔等ヲ有スルモノニハ適宜「スピンドル」油ヲ注入スベシ</p> <p>四、挿架ハ通常分解スルコトナク外部ニ露出セル砲身滑走面ハ塵沙ヲ十分拭淨シタル後塗油スベシ</p> <p>五、後座測尺導溝、遊標等ノ隅角部ハ布片ヲ纏ヒタル木若クハ竹片ヲ使用シテ拭淨塗油シ後座測尺ノ外部ニ現レザル摩擦部ニハ「バラワセリン」ヲ塗布スベシ</p> <p>六、其ノ他ノ素地部ハ十分ニ拭淨シ軸、啞合部ノ摩擦部、其ノ他ノ注油箇所ニハ適宜脂油ヲ塗施スベシ砲身ヲ離脱シテ挿架上面ニ塗油スベシ</p>	<p>一、閉鎖機室ノ四部、隅角部及ねじ部等ハ木若クハ竹片ノ頭部ニ布片ヲ纏ヒテ使用シ限ナク拭淨スベシ</p> <p>二、塗油ハ各部ニ普及スル如クシ特ニねじ部ノ摩擦部ニハ稍々潤澤ニ塗油スベシ</p> <p>三、砲身外部ニ塵埃、汚垢等ノ附著セルモノハ雜巾塵拂等ニテ掃除シ固著セルモノハ濕布ヲ以テ除去スベシ此ノ際塗料ヲ剥脱セザルコトニ注意スベシ</p> <p>四、塵埃塵埃ハ土砂等ニ依リ斑痕ヲ生ゼシメザル如ク之ガ拭淨ニ注意シ適宜塗油スベシ</p> <p>五、注油箇所ニハ適宜「スピンドル」油ヲ注入スベシ此ノ際塵埃ヲ混入セシメザルコトニ注意スベシ</p> <p>六、結合部ハ解脫シ又ハ僅カニ移動旋回等ヲ行ヒテ拭淨手入ヲ施スベシ</p>	<p>一、防塵装置ノ絨布等ニ附著セル汚垢ハ乾布ヲ以テ十分拭除スベシ</p> <p>二、「ゴム」彈褥等ニ附著セル油氣及汚垢ハ乾布ヲ以テ十分拭淨スベシ</p> <p>三、黃銅製部品ハ拭淨後摩擦部ニ限り適宜塗油スベシ</p> <p>四、外部塗料ニ附著セル沙塵、汚垢又ハ油氣ハ十分拭淨シ其ノ甚クシク固著セルモノハ濕布ヲ以テ拭去ルベシ</p> <p>五、此ノ際塗料ヲ剥脱セザルコトニ注意スベシ</p>

退駐	砲架	
	砲	架
<p>一、通常外部ニ露出セル部分ヲ拭淨シ素地部ニハ塗油スベシ</p> <p>二、毎月一回活塞桿ヲ若干抽出シテ革環ニ接觸スル部分ヲ拭淨シ要スレバ揮發油又ハ「テレピン」油ヲ以テ拭淨スベシ但シ強摩シテ該部ヲ磨損セザルコトニ注意スベシ又腐蝕痕ヲ有スルモノハ該部ニ</p>	<p>一、外部ニ附著セル土砂、塵埃及油氣ヲ拭淨ス若シ其ノ固著甚クシキハ濕布ヲ用ヒテ拭淨スベシ</p> <p>二、摩擦部ノ防塵油變敗セルモノハ之ヲ除去シタル後新ニ塗油スベシ</p> <p>三、各隅角部、間隙部等ハ布片ヲ纏ヒタル木若クハ竹片ヲ使用シ拭淨スベシ</p> <p>四、挿架等ノ各吻合部ニハ「バラワセリン」ヲ、架尾環ニハ防塵脂ヲ、各軸摩擦部及注油箇所ニハ「スピンドル」油ヲ給スベシ</p> <p>五、脚ハ之ヲ轉位シツツ螺蓋、軸、齒環、齒圈等ノ結合部相互ヲ拭淨塗油スベシ</p> <p>六、砲架ハ之ガ轉位ヲ行ヒツツ拭淨手入ヲ行フベシ</p> <p>七、油孔等ニ汚垢ノ堆積シタルモノハ十分ニ之ヲ除去スベシ</p> <p>八、車輪ハ要スレバ車軸ヨリ離脱シ車軸「ボス」筒等ニ附著セル舊油及汚垢ヲ除去シタル後全面ニ防塵脂又ハ「グリース」ヲ塗施スベシ</p> <p>九、挿架耳蓋板ハ之ヲ解脫シテ挿架耳及同室ヲ拭淨塗油スベシ</p>	<p>一、外部ニ附著セル土砂、塵埃及油氣ヲ拭淨ス若シ其ノ固著甚クシキハ濕布ヲ用ヒテ拭淨スベシ</p> <p>二、摩擦部ノ防塵油變敗セルモノハ之ヲ除去シタル後新ニ塗油スベシ</p> <p>三、各隅角部、間隙部等ハ布片ヲ纏ヒタル木若クハ竹片ヲ使用シ拭淨スベシ</p> <p>四、挿架等ノ各吻合部ニハ「バラワセリン」ヲ、架尾環ニハ防塵脂ヲ、各軸摩擦部及注油箇所ニハ「スピンドル」油ヲ給スベシ</p> <p>五、脚ハ之ヲ轉位シツツ螺蓋、軸、齒環、齒圈等ノ結合部相互ヲ拭淨塗油スベシ</p> <p>六、砲架ハ之ガ轉位ヲ行ヒツツ拭淨手入ヲ行フベシ</p> <p>七、油孔等ニ汚垢ノ堆積シタルモノハ十分ニ之ヲ除去スベシ</p> <p>八、車輪ハ要スレバ車軸ヨリ離脱シ車軸「ボス」筒等ニ附著セル舊油及汚垢ヲ除去シタル後全面ニ防塵脂又ハ「グリース」ヲ塗施スベシ</p> <p>九、挿架耳蓋板ハ之ヲ解脫シテ挿架耳及同室ヲ拭淨塗油スベシ</p>

品 類	尺 表	具 準 照	機 準 照	機 座 復
儀限象	得助補	具 準 照	機 準 照	機 座 復
一、機座部ノ塵埃、汚垢ヲ丁寧ニ拭淨シ鉄部ニハ塗油スベシ	表ハ補助桿ハ乾布ヲ以テ眼鏡室及底板部ヲ清拭シ塵埃、汚垢ヲ十分除去シ僅カニ塗油スベシ	照準具各部ハ常ニ拭淨シテ清潔ニシ滑動部ニハ適度ニ注油シテ作動ヲ輕易ナラシムベシ 一、照準具ノ手入ヲ行フニハ塵埃ヲ避ケ毛布等ヲ敷キテ手入案上ニ於テ實施スベシ 二、照準具ハ拭淨後鉄素地部ニハ適度ニ塗油シ塵埃及發錆ヲ豫防スベシ 三、適度ノ摩擦ニ依リ塵埃ヲシメ又ハ打痕反起ヲ生ゼシメザル如ク丁寧ニ手入ヲ行フベシ 四、眼鏡室ハ軟布、刷毛等ヲ以テ輕ク拭淨シテ塵埃汚垢ヲ十分ニ除去シ鉄素地部ニハ僅カニ給油スベシ 照準具托架モ之ニ準ズ	照準機ハ各部ノ手入ヲ良好ニシ其ノ操作ヲ輕快ナラシムルヲ要ス然レドモ過度ニ作動輕易ナルトキハ發射ノ劇動ニ依リ不慮ノ誤差ヲ生ズルコトアルヲ以テ各部ヲ適當ニ緊定シ置クベシ 一、高低、方向用轉輪ヲ旋回シツツねじ部、齒環等ヲ拭淨シ塗油スベシ 二、軸、啖合部、摩擦部等ニ適度ニ給油シ又注油箇所ハ轉輪等ヲ旋回シテ移動シツツ各部ニ給油ノ普及ヲ圖ルベシ	「ベト」ロラクムヲ薄ク塗布スベシ 右腐蝕防止ノ爲該部ニ「クロムメツキ」ヲ施シ又ハ適當ナル塗料ヲ塗布スルコトヲ得然ルトキハ前記ノ手入ヲ省略シ得ルモノトス 但シ「クロムメツキ」作業ノ爲高熱ニ依リ金質ヲ變化セシムルコトナキヲ要ス
二、分畫板面ハ強炭スベカラズ又目盛ニ施シタル塗料ノ剝脱セルモノハ適宜補修スベシ				

二、使用時ノ手入

- 1、火炮ノ使用ニ方リテハ其ノ目的ニ應ジ豫メ必要部位ノ手入ヲ十分ニ行ヒ且使用間ハ時々緊要部ノ沙塵ヲ拭淨シ又要スレバ摩擦部ニ給油シ其ノ摩擦ヲ豫防スベシ
- 2、雨雪天又ハ泥濘甚ダシキトキ等使用ノ場合ニ於テハ左ノ要領ニ依リ手入ヲ實施スルモノトス
 - イ、使用前
砲腔、閉鎖機及雨雪ニ露出スル各機要部ニハ稍々多量ニ塗油スベシ
 - ロ、使用後
使用後ノ塗油ハ一般ニ稍々多量ニ施シ且爾後ノ手入ヲ頻繁ニ實施シテ各部ノ發錆ヲ豫防スベシ
水洗スル場合ニ於テハ砲身、搖架、照準機ノ内部又ハ注油孔等ニ水濕ヲ及サザル如ク注意シ且洗滌後十分ニ各部ノ水分ヲ除去スベシ
- 3、連日使用ノ際ハ使用期間時々照準機、搖架耳室等塵埃ヲ蒙リ又ハ摩擦ノ爲其ノ機能ヲ害スル虞アル部分ハ之ヲ分解拭淨シテ塗油シ特ニ車軸ノ手入ヲ十分ナラシムルヲ要ス
- 4、射撃ニ於ケル手入ハ左ノ要領ニ依リ實施スルモノトス
 - イ、射撃前

區分	實	施	要	領
砲腔閉鎖機	一、砲腔、閉鎖機ハ塵埃汚垢ヲ留メザル如ク丁寧ニ拭淨シ各部ニ適度ニ塗油スベシ 藥室ノ塗油過量ナルトキハ藥室ニ凹痕ヲ生ズルコトアリ 二、擊發機ハ分解シテ各部品及其ノ室ニ塵埃、汚垢ヲ留メザル如ク拭淨シ適度ニ塗油スベシ但シ極寒地ニ於テ適當ナル耐寒性「スピンドル」油ヲ得ラレザル場合ニ在リテハ却ツテ塗油セザルヲ可トスルコトアリ			
照準機	要スレバ各部ヲ分解シテ手入ヲ行フベシ			
駐退復座機	一、分解制限品ノ外精密手入ニ準ジ要スレバ分解手入ヲ行フベシ 二、分解手入ヲ行ハザルモノニ在リテモ少クモ駐退液ヲ排出シテ濾過清淨シ且之ヲ補充スベシ			
其ノ他	射撃直前ニ於テハ射撃間ノ手入ニ準ジ實施スベシ			

區分	實	施	要	領
砲身閉鎖機	一、腔鏡起部附近藥室及抽筒子室ハ時々拭淨シ又射撃中止間ニ於テ狀況之ヲ許セバ勉メテ砲腔ノ拭淨手入並ニ塗油ヲ實施スベシ此ノ際腔中油ヲ塗布シ置キハ爾後ノ手入ヲ容易ナラシムルノ利アリ 二、長時間射撃ヲ續行スルトキハ機會アル毎ニ砲身ノ各處擦部ニ塗油シ注油箇内ニハ時々注油スベシ 三、連續射撃ヲ爲シ砲身過熱シタルトキハ要スレバ砲身外部ニ注水シ冷却ヲ圖ルベシ 四、不發火又ハ「ガス」ノ漏洩アルトキハ擊發機能ヲ點檢シ要スレバ之ヲ分解シテ各部品及同室ヲ手			

機	其ノ他
入スベシ 又閉鎖機ノ前面、擊發孔、擊發機及同室等ハ時々拭淨シテ塗油スベシ	砲身及搖架ノ滑走面ノ塵埃ヲ拭淨シ注油箇所ニハ時々給油スベシ

ハ、射撃後

砲	區分	實	施	要	領
合場各	一、射撃後直チニ腔中洗滌液ニテ洗滌手入ヲ實施シ得ル場合 二、射撃後直チニ手入ヲ實施シ得ザル	1、砲腔ハ腔中洗滌液(以下洗滌液ト略稱ス)又ハ開砂液ニテ洗滌ス 2、藥室ハ洗滌液ヲ浸マセタル布片ヲ以テ拭淨ス 3、閉鎖機ノ各部ハ分解ノ上洗滌液ニテ十分洗滌ス 4、洗滌後各部ニ附着セル液ヲ拭除シ腔中ヲ檢査シタル後「スピンドル」油ヲ塗布ス	1、前項ニ依ル洗滌液ニ依リ洗滌ヲ實施シタル後殘液ヲ拭除ス 2、腔中油ヲ浸マセタル布片ヲ洗滌頭ニ纏ヒ腔面ニ等齊ニ之ヲ塗布シ數時		
手入	一、射撃後ニ於ケル腔中手入ノ良否ハ其ノ保存ニ影響スルコト最モ大ナリ故ニ成ルベク速カニ砲腔及閉鎖機ノ手入ヲ實施スルヲ要ス其ノ他ノ部位ハ普通手入ニ準ジ行フベシ 二、腔中手入實施ノ方法ハ時機及材料ノ有無等狀況ニ依リ一定スルヲ得ザルモ爲シ得ル限り最善ヲ盡クスト必要トス 而シテ狀況止ムヲ得ザル場合ニハ縦ヒ水洗スルモ之ヲ行ハザルニ優ルモノトス 砲腔、閉鎖機ノ内部ニ附着セル塵埃、蠟等ハ一回ノ手入ニ於テ完全ニ除去スルコト困難ナル場合アルヲ以テ爾後布片ニ汚物ノ全ク附着セザルニ至ル迄日々手入ヲ復行スベシ 三、手入實施ノ要領左ノ如シ				

駐退復座機	法入手ルケ於ニ	法入手ルケ於ニ
液中ニ氣泡混在セルトキハ鋼部腐蝕ノ原因ト成ルモノトス故ニ射撃間ニ於テ其ノ疑アルモノハ射撃後復座機ヲ分解シテ手入ヲ行フベシ	<p>カ又ハ燒蝕、腐蝕等ノ爲射撃後ノ最初ノ手入ニテ完全ニ燒蝕ヲ除去シ得ザル場合</p> <p>三、洗滌液ヲ有セザルカ又ハ之ニ依ル洗滌手入ヲ行フ餘裕ナキ場合</p> <p>四、洗滌液、腔中油等ニ之ヲ有セザル場合</p>	<p>間乃至十數時間放置シテ銹蝕ノ素因タル燒流等ヲ浮出サシム</p> <p>B、要スレバ前二項ノ手入ヲ反復シタル後布片ヲ以テ拭淨シ腔中ヲ検査シテ「スピンドル」油ヲ塗布ス</p> <p>注意 本場合ニ於テ腔中油ニ依ル手入ヲ行フコトナク直チニ「スピンドル」油ヲ塗布スルトキハ腔中ニ侵入セル燒流ハ油膜下ニ在リテ腐蝕作用ヲナスモノトス</p> <p>1、腔中油ヲ浸マセタル布片ヲ洗滌頭ニ纏ヒ腔面ヲ拭淨シタル後前項2、及3ニ依リ手入ヲ行フ</p> <p>2、若シ「スピンドル」油ヲ塗布スル前ニ洗滌液ヲ得タル場合ニハ先ヅ之ニテ洗滌ヲ行フヲ有利トス</p> <p>此ノ場合ニ在リテハ「スピンドル」油ヲ以テ洗滌スルコトヲ得ルモ其ノ效果ハ十分ナラザルコトニ注意スルヲ要ス</p>
	<p>洗滌液ヲ使用スル洗滌ノ方法概ネ左ノ如シ</p> <p>一、打發藥莖等ヲ用ヒ藥室ヲ閉塞シ適宜ノ方法ニ依リ之ヲ支持シ又砲口ニハ砲口保護器ヲ裝ス</p> <p>二、洗滌頭ヲ洗滌液ニ浸シ腔中ニ挿入シテ洗滌ヲ進退セシメ屢々洗滌頭ニ液ヲ注ギ概ネ三十回洗滌シテ殘液ヲ除去ス</p> <p>三、洗滌液ヲ洗滌頭及洗滌内ヲ通シ注流スル如ク製作セル給水流回式洗滌頭ヲ用フルカ又ハ旋回式洗滌頭ヲ用ヒ液ヲ砲尾栓(例ヘバ打發藥莖等)ノ中央ノ孔ヨリ注入スル如クシテ洗滌スレバ操作容易ナリ</p>	

其ノ二 精密手入

- 一、精密手入ハ射撃演習又ハ秋季演習後或ニ格納ニ際シ之ヲ行フモノトス
 - 二、精密手入ハ各部ヲ分解シテ行ヒ又要スレバ塗料ノ塗換若クハ補修ヲ行フベシ
- 分解手入ニ方リテハ齒車、齒弧、軸部等ノ反起、偏摩或ハばね「ボルト」、止栓等ノ衰損、屈曲、折損又ハ緊塞革車頭等ノ衰損セルモノハ修理若クハ交換シ日常外部ヨリ拭淨シ能ハザル部分特ニ軸部及擦摩部等ハ拭淨後十分ニ塗油シテ結合スベシ
- 又注油孔ノ閉塞セルモノハ之ヲ開通セシメ油蓋、脂溜ニハ總テ脂油ヲ噴實スルヲ要ス
- 三、舊油ノ除去困難ナルモノハ小部品ニ在リテハ加熱セル「スピンドル」油ニ浸漬シ其ノ他ハ「スピンドル」油又ハ「テレビン」油ニテ之ヲ溶解セシメテ除去スベシ
 - 四、各部ノ手入ハ普通手入ニ準ズルノ外左ノ要領ニ依リ實施スルモノトス
- 但シ「ベトロラタム」ヲ塗布スルモノノ外普通手入ノ區分ニ依リ塗油スルモノトス

區分	實 施 要 領
砲身	一、結合時ニ手入ヲ實施シ得ザル部分ノ手入ヲ精密ニシ防護板絨毛ノ汚垢ヲ除去スベシ
閉鎖機	二、砲腔ノ拭淨及閉鎖機ノ手入ハ普通手入ニ同ジ
砲架	各部ヲ分解シテ結合時外部ニ現レザル鉄索地部ニハ「ベトロラタム」ヲ塗布スベシ

照準機	駐	退	復	座
各部ヲ分解シテ拭淨スベシ	<p>一、分解制限品ノ外各部ヲ分解シテ左ノ要領ニ依リ手入ヲ行フベシ</p> <p>1、駐退管等ハ布片ヲ以テ外部ヲ拭淨シ内面ハ濕布又ハ油布ヲ纏ヒタル桿ヲ以テ拭淨スレバ水洗シタル後水分ヲ拭除スベシ又管壁ニ設ケタル漏溝等ニ附著セル金屬屑粉又ハ塵埃等ハ刷毛又ハ布片ヲ纏ヒタル木片等ヲ以テ之ヲ除去スベシ</p> <p>2、駐退液ノ注入前後ニ必ず拭淨ヲ行フベシ又直チニ結合セザルトキハ内部ニ塵埃侵入シ且發錆シ易キヲ以テ布片等ヲ以テ其ノ口部ヲ閉塞シ又稍ミ長ク分解ノ儘置クトキハ「スピンドル」油「ワセリン」等ヲ用イテ一時防錆ノ處置ヲ講ズベシ</p> <p>3、活塞桿ハ日常手入ニ準ジ手入スベシ</p> <p>4、緊塞用具、塞螺等ハ潤滑セル汚垢ヲ拭淨スベシ</p> <p>5、「ゴム」彈簧ニ附著セル汚垢、油分等ハ乾布ヲ以テ拭淨スベシ</p> <p>6、駐退管外部ニハ「ベトロラタム」ヲ塗布スベシ</p> <p>7、復座ばね、隔板等ハ要スレバ舊油ヲ除去シテ「ベトロラタム」ヲ塗布スベシ</p> <p>8、駐退液ヲ濾過清淨シテ要スレバ新液ヲ補充スベシ</p>	<p>一、液ノ種類</p> <p>1、駐退液ニハ舊式火砲中ニハ純「グリセリン」ヲ使用スルモノアルモ通常「グリセリン」ニ容ト水一容トノ混合液ヲ使用ス</p> <p>2、造兵廠ヨリ駐退復座液乙（甲ヲ使用スベカラズ）ヲ購入使用スルヲ可トス</p> <p>3、「グリセリン」ニ容ト水一容トノ混合液ハ各種ノ配合比中凝固點最モ低キモノニシテ常溫ニ於テ「ボーメ」浮秤ニ依ルニ〇度ノ濃度ヲ有スルモノトス</p> <p>4、「グリセリン」ハ弱酸性ヲ有シ活塞桿、駐退管等腐蝕ノ原因トナルヲ以テ之ヲ中和スル爲前號駐退液ニ苛性「ソーダ」ヲ添加セルモノナリ</p> <p>5、「グリセリン」ニ配合スベキ水ハ酸又ハ「アンモニア」ノ微量ヲ含有スベカラズ</p>	<p>2、舊液ノ使用法</p> <p>イ、使用中ノ液ヲ再用スルニハ之ヲ濾過シテ金屬屑粉又ハ汚塵等ヲ去リ且液ヲ靜置シテ不純物ヲ沈降セシメ其ノ澄液ヲ使用ス</p> <p>ロ、液ヲ完全ニ濾過スルニハ深キ容器ニ容レ約一晝夜之ヲ靜置シ浮物ヲ沈降セシメ其ノ上澄液ヲ取り數重ノ木綿布等ニテ濾過ス</p> <p>ハ、液ノ容器ハ液ヲ不純ナラシメザル爲清淨ナルモノヲ使用シ且蓋ヲ施スベシ</p> <p>ニ、舊液ハ濾過清淨後比重ヲ測定シ其ノ誤差ヲ調節スル如ク加減シツツ新液ヲ注加ス</p> <p>ホ、液ノ甚ダシク變化セルモノハ「リトマス」試験紙等ニテ點檢シ酸性ナルカ「アルカリ」性特ニ著シキトキハ交換スルヲ要ス</p>	機

第二款 格納品ノ手入

其ノ一 格納前ノ手入

- 一、火砲ヲ格納スルトキハ前節ニ準ジ精密手入ヲ行ヒ鉄部ノ防錆、革製品ノ防塵、麻及毛製品類ノ防虫等格納間ニ於ケル損傷豫防ノ處置ヲ十分ニ行フモノトス
- 二、鉄索地部ニハ左記ノ外一般ニ「ベトロラタム」ヲ塗布スルモノトス但シ小部品類ハ液體浸漬格納ヲ行フコトヲ得
- 1、一時格納
 - 閉鎖機、照準機等ノ如キ塗替ヲ行ハザルモ直チニ使用シ得ル部位ニハ「ペラワセリン」ヲ塗布スルコトヲ得
- 2、長期格納
 - 手入

イ、「ボルト」、「ナット」及黒色肌ヲ有スルばねニシテ分離格納スルモノハ錆止「ペイント」ヲ塗布スルコトヲ得
而シテ使用ニ際シテハ特ニ之ヲ剝脱スルヲ要セズ

ロ、鉄製輪帯ニハ「コールタール」ヲ塗布ス

三、「ペトロラタム」ハ各部等齊ニシテ緻密ナル被膜ヲ構成セシムルヲ要ス之ガ爲長期格納品ニ在リテハ小部品ハ熔融セ
ル「ペトロラタム」ニ浸漬スルヲ可トシ其ノ他ハ刷毛等ニテ塗布シタル後要スレバ微熱ヲ加ヘテ熔融セシムルコトヲ得
四、塗料ノ剝脱セルモノ又ハ塗料ノ部位ニ發錆ノ徵アルモノハ之ヲ剝脱シテ手入ヲ行ヒタル後補修塗又ハ塗替ヲ實施ス
ベシ

其ノ二 格納間ノ手入

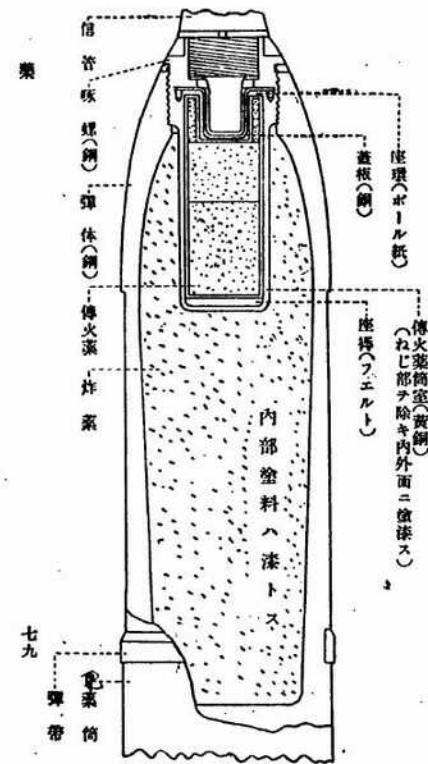
一、格納間ノ手入ハ抽出検査ノ結果必要ト認メタルトキ全部又ハ局部ニ對シ前款ノ要領ニ依リ之ヲ行フモノトス
二、永年射撃ヲ實施スル機會ナキ火炮ニシテ駐退機ヲ結合ノ價格納セルモノニ在リテハ少クモ三年ニ一回駐退液ヲ排出
シテ通過シ若クハ異狀ヲ認メタルトキハ駐退機ノ分解手入ヲ實施シ駐退液ヲ更新スベシ

第五節 彈 藥

第一款 構造機能ノ大要

其ノ一 九二式榴彈

一、九二式榴彈ハ彈丸、信管、藥筒ヨリ成リ露露セル人馬ノ殺傷ニ適ス
二、彈体ハ鋼製ニシテ頭部ニ信管ヲ螺著シ内部ニ炸藥ヲ收容ス又彈尾ニハ藥筒ヲ裝シ彈尾ニ近ク其ノ外周ニ彈帯ヲ有ス
彈体ノ外部ハ黒色ニ塗染シ彈体上部ニ白線（鋼製ナルヲ示ス）ヲ、定心部ニ黄線（高級炸藥ナルヲ示ス）ヲ塗布ス



九二式歩兵砲取扱上ノ参考

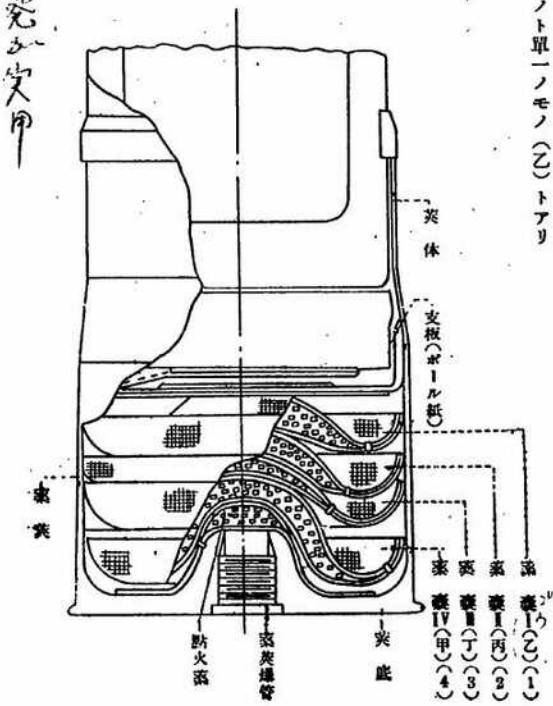
八〇

三、薬筒ハ薬莖、爆管、薬莖、装薬、点火薬ヨリ成ル發射ニ方リ装薬ニ点火セバ火薬「ガス」ハ其ノ壓力ニ依リ彈丸ヲ放射ス

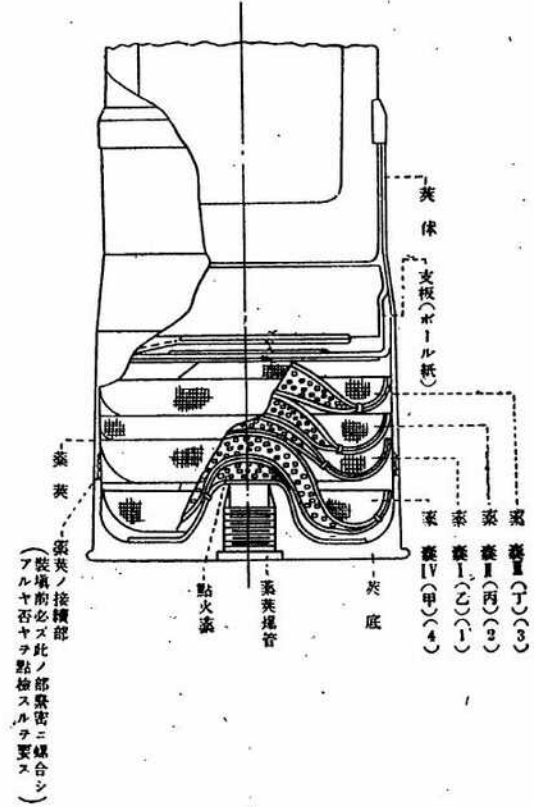
四、薬莖ハ接続式ノモノト單一ノモノ(乙)トアリ

一号 五ナグラム
二号 三ナグラム
三号 二ナグラム
四号 一ナグラム
キヨリ
一号 二ナグラム
二号 一ナグラム

(乙) 筒薬彈砲兵歩式二九



筒薬彈砲兵歩式二九 (薬莖續接)



五、本薬筒ハ「九二歩乙」ト標記シアリテ彈尾ト莖口トノ間ニ間隙ヲ有シ薬筒ヲ分離シテ装薬ノ編合ニ便ナラシム

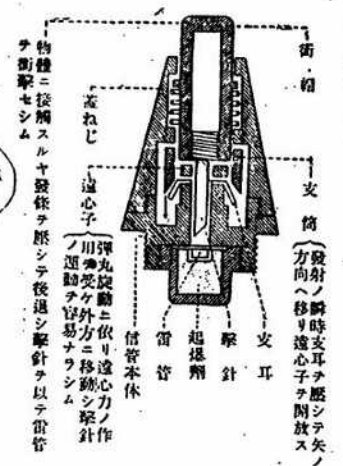
彈 薬

八一

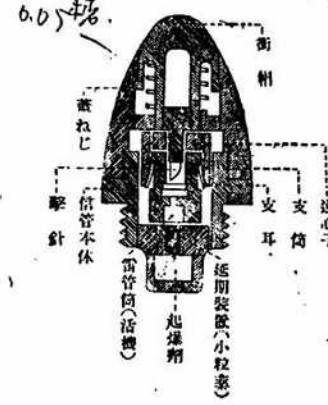
めくれず

九二式歩兵砲取扱上ノ参考
 六、信管ハ八八式瞬發信管「榴日」並ニ八八式短延期信管「榴日」ヲ使用ス(野山加)ヲ用フルトキハ不發ヲ生ズルコト多キニ注意スベシ

八八式瞬發信管



八八式短延期信管



其ノニ 九二式代用彈及空包
 九二式代用彈ハ平時射撃ノ演練ニ際シ榴彈ニ代用スルモノニシテ形状全ク榴彈ニ同ジク炸薬及金質ヲ異ニス
 空包ハ薬莢、裝薬、點火薬、薬囊、爆管ヨリ成リ裝薬トシテ一號空包薬ヲ使用ス

第二款 取扱上ノ注意

- 一、彈筒筒ハ成ルベク撃突等ノ衝撃ヲ避クベシ平時榴彈射撃ニ於テハ彈莢ヲ彈薬箱ニ收容スルコトナク手ニ持チテ運搬スルハ危険ノ懼アルヲ以テ成ルベク避クルヲ要ス
- 二、薬莢ノ接續ねじ部ニ反起、打痕ヲ生ジ又ハ土砂等ヲ附着セシムルトキハ裝薬編合ノ爲薬莢ノ分解結合困難又ハ不可能ナルヲ以テ注意スベシ
- 三、薬莢ノ分解ニ方リテ裝薬露出スルヲ以テ特ニ雨天若クハ濕地ニ於ケル操作ニ注意スベシ
- 四、裝薬ノ編合順序ヲ誤ラザルコト肝要ナリ之方爲裝薬囊上ノ標識ト裝薬號トノ關係ヲ了得スルヲ要ス
- 五、信管ノ安全栓ハ裝填ノ際以外ハ必ず確實ニ挿入シ置クヲ要ス
- 六、彈筒筒重量ノ大部ハ殆ド彈丸ナルヲ以テ其ノ取扱ニ方リテハ常ニ彈丸ヲ把持スベシ然ラザレバ彈筒破散ヲ生ジ裝填ヲ不能ナラシムルコトアリ

彈 藥

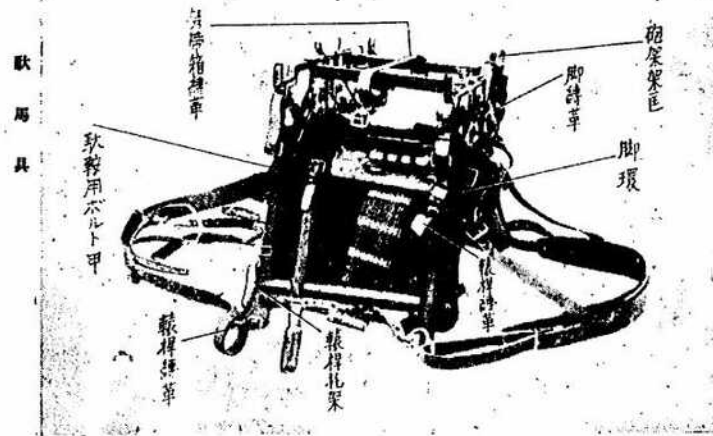
八三

- 七、四號裝藥ノ組合ニ於テハ四號裝藥ノ縛著狀況ヲ點檢シ置クヲ可トス是縛著良好ナラズ離脱シアル場合ニハ燃燒不規則ナリ射撃ニ惡結果ヲ來ス虞アルヲ以テナリ
- 八、彈藥筒底部特ニ爆管ノ底部ヲ擊突セシムベカラズ之ガ爲彈藥筒ハ成ルベク靜カニ横ニシ置クヲ可トス
- 九、彈藥筒裝填不具合ニシテ抽彈ヲ要スルトキハ慎重ニ操作スルヲ要ス
- 十、彈頭ノ赤色塗料ハ填藥ヲ示スモノナルヲ以テ該塗料ノ有無ニ注意スルヲ要ス
- 十一、不發ノ彈丸或ハ信管ハ極メテ不安定ノ状態ニ在ルヲ以テ決シテ之ニ觸ルベカラズ
- 十二、以上ノ外彈藥筒(乙)ヲ使用スル場合ハ左ノ諸件ニ注意スベシ
 - 1、彈藥筒(乙)ハ彈筒ヲ持テテ逆サニスルトキハ彈丸ハ彈筒ヨリ落下スルヲ以テ取扱申特ニ運搬、彈藥筒ノ出納、裝填ノ際等彈丸ヲ取落サザル如ク確實ニ保持スルヲ要ス
 - 2、裝藥ノ組合ハ左ノ如ク實施ス
 - イ、一號裝藥ハ其ノ儘使用ス
 - ロ、二號裝藥以下ハ左ノ順序ニ依リ行フ
 - (イ) 紐ヲ抽キテ支板ヲ取出ス
 - (ロ) 二號裝藥ハ最上位1、(乙) 藥包一箇ヲ取出ス
 - (ハ) 三號裝藥ハ1、(乙) 藥包及其下ノ2、(丙) 藥包ノ二箇ヲ取出ス

- (ニ) 四號裝藥ハ1、2、(乙) (丙) 藥包ト更ニ其ノ下ノ3、(丁) 藥包ノ三箇ヲ取出ス
- (ホ) 所用ノ藥包ヲ取出シタル後支板ヲ舊ノ如ク十分挿入ス此ノ際若シ藥包ノ變位セルモノアラバ其ノ位置ヲ正シタル後支板ヲ裝ス

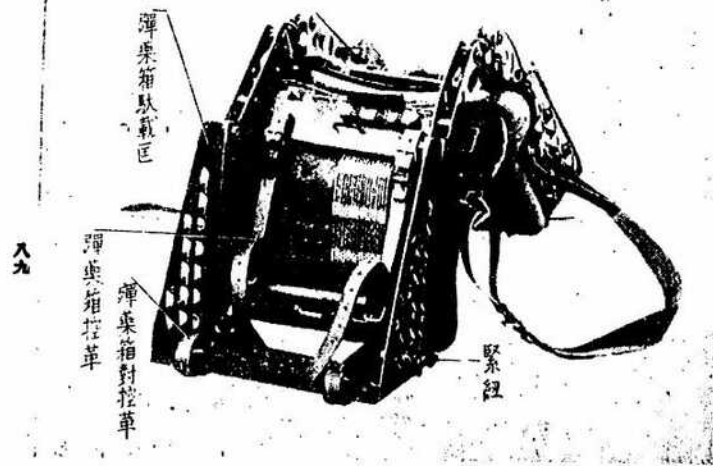
- (ハ) 藥筒ニ舊ノ如ク彈丸ヲ挿入ス
- 3、彈藥筒(乙) ハ英口ニテ緊塞シアラザルヲ以テ英口ヨリ藥筒内ニ雨水ノ浸入スル虞アリ屋外ノ貯藏、運搬間、渡河、降雨ノ際特ニ防水ニ注意スルヲ要ス
- 4、支板ハ防水ノ爲膠皮紙ヲ以テ裝藥内側ニ目張シアアルヲ以テ安リニ破ルベカラズ
- 破損ヲ發見シタル場合或ハ裝藥ノ浸水ヲ點檢スル等止ムヲ得ズ破リタルトキハ必ず舊ノ如ク補修シ置クベシ
- 5、發射後砲腔内ニ支板ノ殘ルコトアルヲ以テ毎發砲腔内ノ點檢ヲ要ス

砲架用



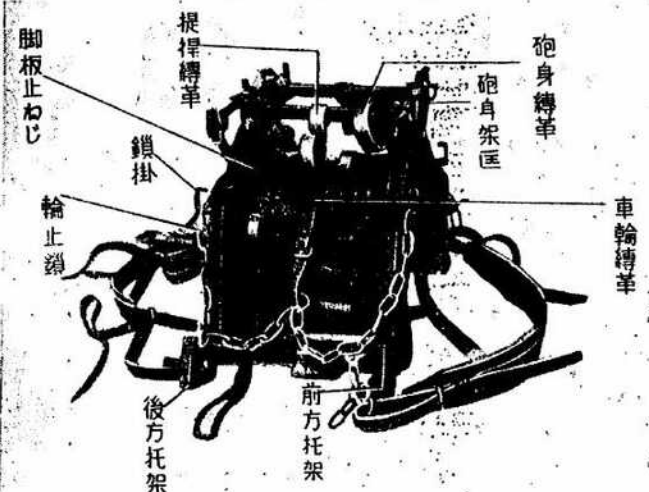
鞍馬具

彈藥箱用



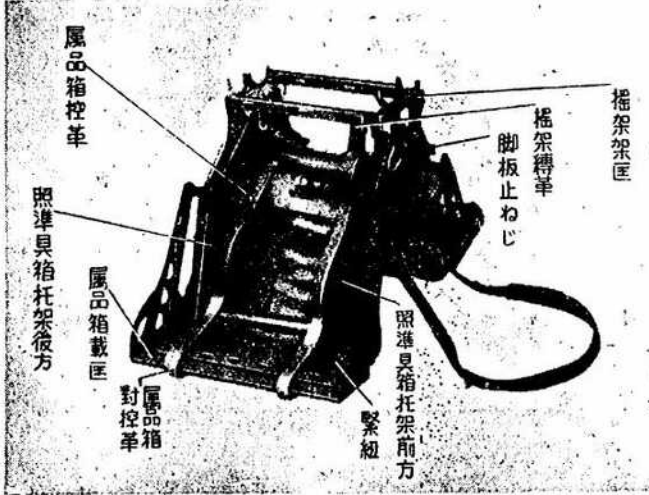
八九

圖用鞍身砲



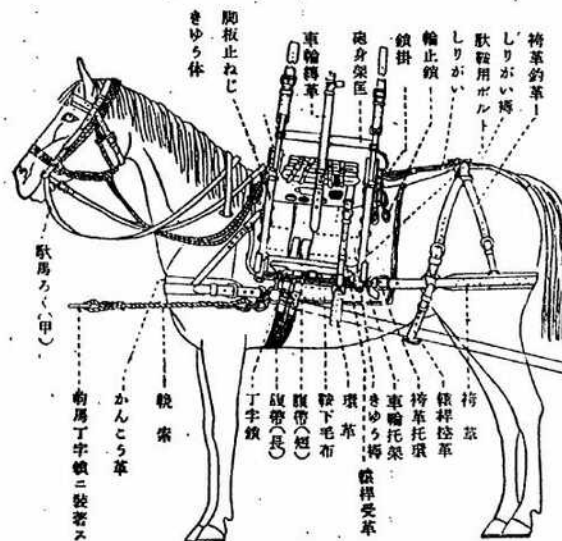
九二式歩兵砲取扱上ノ參考

用架插



八八

(領要裝馬) 圖 曳 轆



第二款 結合及分解

- 一、きゆうり体トきゆうり馬トノ結合及分解
 - 1、きゆうり馬止金ヲ弓材下部ノ溝ニ嵌メ上ニ引上グ
 - 2、居木前革ニ居木前脚ヲ入ル
 - 3、居木室後革ヲ居木後脚ニ冠ラセ鑿環ヲ控著ス
- 二、きゆうり体ニ腹帶ノ裝著及離脱

長ヲ右側ノ居木ニ、短ヲ左側ノ居木ニ附スルモノトス又既ニきゆうり馬ヲ附シアルトキハ居木室後革ノ控著ヲ解キテ行ヘバ作業容易ナリ

 - 1、腹帶ヲ連結板ノ内側(きゆうり馬トノ間)ヨリ持ち表面ヲ外側ニ向ヒテ止木ノ挿入口ヲ有スル端ヲ居木ノ腹帶通孔ニ表面ヨリ通ス
 - 2、馬腹ノ大キサヲ顧慮シ止木ヲ裝ス
 - 3、腹帶ヲ居木ノ裏側ニ引キ止木上ニ安屯セシム

離脱ハ之ト反對ノ操作ニ依ル

三、きゆうり体ニ架匣（砲身用、搖架用、砲架用、彈藥箱用）ノ裝著及離脱

- 1、きゆうり体ヲ床ニ安置ス
 - 2、きゆうり体ノ開キヲ略シ架匣脚板ノ開キニ應ズル如ク規整ス
 - 3、弓鉄軸ヲ離脱ス
 - 4、架匣ノ前後ヲ誤ラザル如ク之ヲ弓鉄上ニ致ス
 - 5、座板ヲ挟ミテ脚板止ねじヲ弓鉄ノ準孔及脚板ノ圓孔ニ裝シ「ナット」ヲ螺著シ割「ピン」ヲ裝シ
 - 6、準板ノ下端ヲ弓鉄軸ニ裝シ「ナット」及割「ピン」ヲ以テ緊定ス
- 分解ハ之ト反對ノ順序ニ依ル
- 四、砲身用鞍ニ車輪托架ノ裝著
 - 車輪托架左右兩弓材下方ニ「ボルト」ヲ以テ裝著ス
 - 五、砲架用鞍ニ轆桿托架ノ裝著
 - 右同
 - 六、搖架用鞍ニ照準具托架ノ裝著
 - 右同
 - 七、きゆうり体ニ駄載匣（屬品箱、彈藥箱）ノ裝著

駄載匣ハ側板上端ノ托筒ヲ前後弓材上端ノ方形孔ニ取附ケ「ボルト」「ナット」及割「ピン」ヲ裝著シ緊紐ヲ底板ノ緊紐孔ニ通シ弓材ニ縛著ス

八、砲身用、砲架用鞍ニかんこう革及丁字鎖ノ裝著

- 1、丁字鎖ノ托架ヲ連結板ノ前方脚環ニ裝著ス此ノ際方形環ハ前方ニ丁字鎖ハ後方ニ向フ如クシ又托板ノ軸頭ハ内側ニ於テ割「ピン」ヲ裝スルモノトス
- 2、かんこう革ノ釣革ヲきゆうり体ノかんこう革托環ニ控著ス
- 3、右方ノ對控革ヲ丁字鎖ノ方形環ニ内ヨリ外ニ通シ更ニ響環ニ控著ス
- 九、砲身用、砲架用鞍ニしりがい、しりがい褥、褥革釣革及轆桿控革ノ結合
- 1、しりがい褥上ニ褥革釣革（止革ヲ用フ）及しりがいヲ其ノ順序ニ載セしりがい褥ノ細革條ヲ其ノ孔ニ通シ縛著ス
- 2、褥革ノ釣革ノ受革ニ褥革釣革ヲ控著ス
- 3、しりがいノ對控革ヲきゆうり体ノしりがい托環ニ下ヨリ通シ更ニ遊環革ヲ通シテ響環ニ控著ス
- 4、褥革ノ對控革ヲきゆうり褥ノ褥革托環ニ内ヨリ通シ控著ス
- 5、轆桿控革ヲ褥革兩端ノ圓形環ニ外ヨリ通シ更ニ裏面ノ環革ニ通シテ附ス
- 十、搖架用、彈藥箱用鞍ニむながいノ裝著
- 一端ノ對控革ヲ右方きゆうり褥ノかんこう革托環ニ裏面ヲ外ニシテ内側ヨリ通シ（此ノ際かんこう革托環ノ方形響環ノ

如ク取扱ハルニ更ニ遊環ヲ通シテ管環ニ控著ス

左方對控革ハ裝鞍後同要領ニ依リ控著ス

十一、搖架用彈簧箱用鞍ニしりがいの裝著

しりがいの對控革ヲしりがい托環ニ裏面ヲ上ニシテ下ヨリ通シ更ニ遊環ヲ通シテ管環ニ控著ス

十二、各鞍ニ縛袋革條ノ裝著

左方居木ノ托環ニ裏面ヲ上ニシテ通ス

十三、砲身用鞍ニ鎖掛ノ裝著

鎖掛軸ヲ弓材上端ノ孔ニ挿入シ「ナット」ヲ裝シ割「ピン」ヲ以テ止ム

十四、砲身用鞍ニ砲身縛革、提桿縛革、車輪縛革ノ裝著

1、砲身縛革ノ裏面ヲ上ニシテ脚板上面ニ在ル右前方及左後方托環ニ外方ヨリ通シ裏面ノ環革ヲ以テ附ス

2、提桿縛革ノ裏面ヲ上ニシテ左右側板中央ノ托環ニ通シ側板ヲ廻ハシテ裏面ノ環革ヲ以テ附ス

3、車輪縛革ノ裏面ヲ上ニシテ左右居木中央ノ托環ニ上ヨリ通シ裏面ノ環革ヲ以テ附ス

十五、砲身用鞍ニ鞍索及輪止鎖ノ附著

鞍索兩端ノ環及鏈鉤輪鎖兩端ノ環ヲ鎖掛ニ懸ク

十六、砲架用鞍ニ携帶箱縛革、脚縛革ノ裝著

1、携帶箱縛革ノ裏面ヲ上ニシテ左側板中央ノ托環ニ通シ更ニ裏面ノ環革ヲ通シテ附ス

2、脚縛革ノ裏面ヲ上ニシテ内方ノ托環ニ上方ヨリ通シ裏面ノ環革ヲ以テ附ス

十七、鞍桿托環ニ鞍桿縛革ノ裝著

鞍桿托環上方ノ托環ニ裏面ヲ上ニシテ上方ヨリ通シ裏面ノ環革ヲ以テ附ス

十八、搖架用鞍ニ搖架縛革ノ裝著

側板左後方外側ニ在ル托環ニ裏面ヲ上ニシテ通シ裏面ノ環革ヲ以テ附ス

十九、馬品箱鞍載匡ニ馬品箱控革、馬品箱對控革ノ裝著

1、馬品箱控革ノ裏面ヲ上ニシテ左右居木ノ前分及後方脚環ニ下方ヨリ管環ニ控著ス

2、馬品箱對控革ノ尖端ヲ鞍載匡底板ノ革條用細窓ニ通シ環革ヲ以テ附ス

3、彈簧箱鞍載匡ニ彈簧箱控革、彈簧箱對控革ノ裝著

前項ニ同シ

二十、鞍馬ろくの結合

1、とららくノ結合ハ左ノ順序ニ依ル

うなじ革ノ長キ對控革ノほほ革端ノ管環ニ控著ス

ひたい革ノ對控革ヲ右ほほ革及左ほほ革ノ通孔ニ其ノ順序ニ通シ馬頭ノ大キサニ適合スル如ク細革條ヲ以テほほ革

鞍馬具

ニ縛著ス

- 2、はみノ圓形環ニほほ革下端ノ對控革ヲ内方ヨリ通シテ控著ス
- 3、たすな短ノ對控革ヲはみノ左ノ圓形環ニ、同ジク長對控革ヲ更ニ右ノ圓形環ニ夫々ほほ革ノ下方ニ於テ内方ヨリ通シテ控著ス
- 4、たすな長及短ノ他端ヲ控著ス
- 5、引たすなノ對控革ノ端ヲ先ヅはみノ左環ニ外方ヨリ通シ更ニ左環ニたすなノ下方ニ於テ内側ヨリ控著ス

第三款 取扱上ノ注意

- 一、歌鞍ハきゆう褥ニ應ジテ開閉シ得ルノ構造ナルヲ以テ其ノ開キヲ適度ニシ且きゆう褥ノ形狀ヲ馬背ニ適應セシムル如クスルヲ要ス
- 二、きゆう褥ヲ開閉スルニハ必ず脚板止ねじヲ緩メタル後規整ねじヲ旋回スベシ然ラザレバ弓鉄ヲ變形セシメ或ハ規整ねじヲ摩損スルニ至ル
- 三、きゆう褥ノ開キヲ決定シタルトキハ止栓ヲ上方ヨリ規整ねじノ圓孔ニ通シ其ノ下端ヲ弓鉄輪ノ凹部ニ嵌入セシメ次ニ脚板止ねじヲ緊定スベシ
- 四、歌鞍ヲ行ヒタルトキハ更ニきゆう褥ノ開キヲ點檢規整スルヲ要ス

三、前後弓鉄ノ開度ニハ居木及連結板ノ構造上左ノ如キ極限ヲ有ス故ニ取扱ニ際シテハ此ノ極限ヲ超エテ開閉セシメザルコト及前後兩弓鉄開度ノ差ヲ一〇〇耗ヨリ著シク大ナラシメザルコトニ注意スルヲ要ス

部 位	最小開度 (耗)	最大開度 (耗)
前方弓鉄下端	四八〇	六八〇
後方弓鉄下端	六〇〇	八〇〇

- 四、弓鉄開閉ニ方リ規整ねじノ回轉困難ナルニ至レバ一應前後弓鉄開度ノ差ヲ點檢スルヲ要ス若シ前項ノ差ヲ著シク超エテ開閉スルトキハ居木及連結板ノ弓材附著部ニ歪ヲ生ジ其ノ部ヲ破損スルニ至ル
- 五、鞍ヲ床上ニ置クトキハ顛倒セシメザル如ク又左右弓材端ハ同時ニ床上ニ置フコトニ注意スベシ
- 六、軸部、摩擦部等ニねじ部ハ往々脂油缺乏シ甚ダシキハ發錆スルニ至レルモノ多シ故ニ常ニ手入ヲ勵行シ塵埃汚垢ノ除去竝ニ「スピンドル」油ヲ塗施ヲ爲スベシ

九二式歩兵砲取扱上ノ參考

昭和十三年八月十二日印刷
昭和十三年八月十八日發行
昭和十七年十月一日改正第七十二版發行

九二式歩兵砲取扱上ノ參考
定價 金 壹拾五錢

陸軍歩兵學校

千葉市作草部町
陸軍歩兵學校將校集會所
代表者 石井星一郎

發行所
千葉市作草部町
陸軍歩兵學校將校集會所

印刷者
東京市麹町區九段一丁目五番地
横山才四郎

印刷所
東京市麹町區九段二丁目五番地
附屬 軍人會館印刷所

取扱所
東京市麹町區九段一丁目五番地
附屬 軍人會館圖書部



電話九段四一〇〇番一四一〇九番
麹町區東京二〇〇七番

故研砲車重疊 2074

繫²³為 ~~220~~
220

今是 208

口徑 70

27條

美留町隊

立原正夫

